

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2002年 9月30日

出 願 番 号

Application Number:

特願2002-285515

[ST.10/C]:

人

[JP2002-285515]

出 願 人

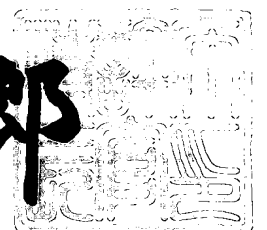
Applicant(s):

コニカ株式会社

2003年 5月 9日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

太田信一郎



出証番号 出証特2003-3034735

【書類名】 特許願  
【整理番号】 DTM00935  
【あて先】 特許庁長官殿  
【国際特許分類】 G03B 27/58  
F16C 13/00

【発明者】

【住所又は居所】 東京都八王子市石川町 2 9 7 0 番地 コニカ株式会社内  
【氏名】 池中 清乃

【発明者】

【住所又は居所】 東京都八王子市石川町 2 9 7 0 番地 コニカ株式会社内  
【氏名】 三森 満

【特許出願人】

【識別番号】 000001270  
【氏名又は名称】 コニカ株式会社

【代理人】

【識別番号】 100107272  
【弁理士】  
【氏名又は名称】 田村 敬二郎

【選任した代理人】

【識別番号】 100109140  
【弁理士】  
【氏名又は名称】 小林 研一

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2002-252986  
【出願日】 平成14年 8月30日

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 052526  
【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0101340

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 光ピックアップ装置、集光光学素子及び補正素子

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 波長  $\lambda_1$  ( $380\text{ nm} < \lambda_1 < 450\text{ nm}$ ) の第 1 光源と、波長  $\lambda_2$  ( $600\text{ nm} < \lambda_2 < 700\text{ nm}$ ) の第 2 光源と、集光光学系とを有し、前記集光光学系が、回折構造を有する集光光学素子と、前記第 1 光源及び／又は前記第 2 光源と前記集光光学素子との間に配置された補正素子とを備え、前記集光光学系が、前記第 1 光源からの光束を、厚さ  $t_1$  の保護層を介して第 1 光情報記録媒体の情報記録面に集光させることによって、情報の記録及び／又は再生を行うことが可能となっており、且つ前記第 2 光源からの光束を、厚さ  $t_2$  の保護層を介して第 2 光情報記録媒体の情報記録面に集光させることによって、情報の記録及び／又は再生を行うことが可能となっている光ピックアップ装置において、

前記第 1 光源からの光束が前記集光光学素子の回折構造を通過することにより発生する  $N$  次回折光を用いて、前記第 1 光情報記録媒体の情報記録面に第 1 スポットが形成され、前記第 2 光源からの光束が前記集光光学素子の回折構造を通過することにより発生する  $M$  ( $M \neq N$ ) 次回折光を用いて、前記第 2 光情報記録媒体の情報記録面に第 2 スポットが形成され、

前記第 1 光情報記録媒体の情報記録面に形成された前記第 1 スポットにおいて前記第 1 光源の波長変化により劣化する球面収差と、温度変化により劣化する球面収差とが、情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えられ、

前記第 2 光情報記録媒体の情報記録面に形成された前記第 2 スポットにおいて、前記第 2 光源の波長変化により劣化する球面収差と、温度変化により劣化する球面収差とが、情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えられていることを特徴とする光ピックアップ装置。

【請求項 2】 前記第 1 光情報記録媒体の情報記録面に形成された前記第 1 スポットにおいて、光源の波長が変化した場合における集光スポットの色収差が、情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えられ、

前記第 2 光情報記録媒体の情報記録面に形成された前記第 2 スポットにおいて

、光源の波長が変化した場合における集光スポットの色収差が、情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えられていることを特徴とする請求項 1 に記載の光ピックアップ装置。

【請求項 3】 前記第 1 光情報記録媒体の保護層の厚さ  $t_1$  及び前記第 2 光情報記録媒体の保護層の厚さ  $t_2$  は、それぞれ、

$$0.5\text{ mm} \leq t_1 \leq 0.7\text{ mm} \quad (1)$$

$$0.5\text{ mm} \leq t_2 \leq 0.7\text{ mm} \quad (2)$$

を満たすことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の光ピックアップ装置。

【請求項 4】 前記集光光学素子の少なくとも一つの光学面の一部における、前記第 1 光情報記録媒体と前記第 2 光情報記録媒体に対して情報の記録及び／又は再生を行う際に共通して光束が通過する領域に前記回折構造が設けられ、前記第 1 光源からの光束が通過したときに、 $3m$  ( $m$  は正の整数、以下同じ) 次回折光の回折効率が、発生する他の次数の回折光の回折効率より高くなり、前記第 2 光源からの光束が通過したときに、 $2m$  次回折光の回折効率が、発生する他の次数の回折光の回折効率より高くなることを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれかに記載の光ピックアップ装置。

【請求項 5】 前記集光光学素子の少なくとも一つの光学面の一部における、前記第 1 光情報記録媒体と前記第 2 光情報記録媒体に対して情報の記録及び／又は再生を行う際に共通して光束が通過する領域に前記回折構造が設けられ、前記第 1 光源からの光束が通過したときに、 $8p$  ( $p$  は正の整数、以下同じ) 次回折光の回折効率が、発生する他の次数の回折光の回折効率より高くなり、前記第 2 光源からの光束が通過したときに、 $5p$  次回折光の回折効率が、発生する他の次数の回折光の回折効率より高くなることを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれかに記載の光ピックアップ装置。

【請求項 6】 前記集光光学素子の少なくとも一つの光学面の一部における、前記第 1 光情報記録媒体と前記第 2 光情報記録媒体に対して情報の記録及び／又は再生を行う際に共通して光束が通過する領域に前記回折構造が設けられ、前記第 1 光源からの光束が通過したときに、 $2n$  ( $n$  は正の整数、以下同じ) 次回折光の回折効率が、発生する他の次数の回折光の回折効率より高くなり、前記第

2 光源からの光束が通過したときに、 $n$  次回折光の回折効率が、発生する他の次数の回折光の回折効率より高くなることを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれかに記載の光ピックアップ装置。

【請求項 7】 前記補正素子は、前記第 1 光源からの光束のみが通過する光路内、又は前記第 2 光源からの光束のみが通過する光路内に配置されていることを特徴とする請求項 4 乃至 6 のいずれかに記載の光ピックアップ装置。

【請求項 8】 前記補正素子は、前記第 2 光源からの光束のみが通過する光路内に配置されており、前記第 1 情報記録媒体の情報記録面に形成される前記第 1 スポットにおける光源の波長が変化した場合の集光スポットの色収差は、前記集光光学素子により情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えられており、前記第 2 情報記録媒体の情報記録面に形成される前記第 2 スポットにおける光源の波長が変化した場合の集光スポットの色収差は、前記補正素子により情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えられていることを特徴とする請求項 7 に記載の光ピックアップ装置。

【請求項 9】 前記集光光学素子に設けられた回折構造のうち、前記第 1 光情報記録媒体と前記第 2 光情報記録媒体に対して情報の記録及び／又は再生を行う際に共通して光束が通過する領域に存在する回折輪帯の数  $N_1$  は、

$$115/A \leq N_1 \leq 155/A \quad (3)$$

(但し、 $A$  は  $3\text{ m}$  又は  $8\text{ p}$  であり、波長  $\lambda_1$  の光束における回折効率が、発生する他の次数の回折光の回折効率より高い次数)

を満たすことを特徴とする請求項 8 に記載の光ピックアップ装置。

【請求項 10】 前記補正素子は、少なくとも一つの光学面に回折構造を有し、前記補正素子の回折構造における回折輪帯数  $N_2$  は、

$$15/k \leq N_2 \leq 45/k \quad (4)$$

(但し、 $k$  は、波長  $\lambda_2$  の光束における回折効率が、発生する他の次数の回折光の回折効率より高い次数)

を満たすことを特徴とする請求項 8 又は 9 に記載の光ピックアップ装置。

【請求項 11】 前記補正素子の回折構造の回折パワーは正であることを特徴とする請求項 7 乃至 10 のいずれかに記載の光ピックアップ装置。

【請求項 1 2】 前記補正素子は、前記第 1 光源からの光束のみが通過する光路内に配置されており、前記第 1 情報記録媒体の情報記録面に形成される前記第 1 スポットにおける光源の波長が変化した場合の集光スポットの色収差は、前記補正素子により情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えられており、前記第 2 情報記録媒体の情報記録面に形成される前記第 2 スポットにおける光源の波長が変化した場合の集光スポットの色収差は、前記集光光学素子により情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えられていることを特徴とする請求項 7 に記載の光ピックアップ装置。

【請求項 1 3】 前記集光光学素子に設けられた回折構造のうち、前記第 1 光情報記録媒体と前記第 2 光情報記録媒体に対して情報の記録及び／又は再生を行う際に共通して光束が通過する領域に存在する回折輪帯の数  $N_1$  は、

$$4.5 / A \leq N_1 \leq 6.5 / A \quad (5)$$

(但し、 $A$  は  $3 \mu$  または  $8 \mu$  であり、波長  $\lambda_1$  の光束における回折効率が、発生する他の次数の回折光の回折効率より高い次数)  
を満たすことを特徴とする請求項 1 2 に記載の光ピックアップ装置。

【請求項 1 4】 前記補正素子は、少なくとも一つの光学面に回折構造を有し、前記補正素子の回折構造における回折輪帯数  $N_2$  は、

$$3.0 / k \leq N_2 \leq 8.0 / k \quad (6)$$

(但し、 $k$  は、波長  $\lambda_2$  の光束における回折効率が、発生する他の次数の回折光の回折効率より高い次数)  
を満たすことを特徴とする請求項 1 2 又は 1 3 に記載の光ピックアップ装置。

【請求項 1 5】 前記補正素子の回折構造の回折パワーは負であることを特徴とする請求項 1 2 乃至 1 4 のいずれかに記載の光ピックアップ装置。

【請求項 1 6】 前記補正素子は、前記第 1 光源からの光束が通過する光路及び前記第 2 光源からの光束が通過する光路内に配置されていることを特徴とする請求項 7 に記載の光ピックアップ装置。

【請求項 1 7】 前記第 1 情報記録媒体の情報記録面に形成される前記第 1 スポット及び前記第 2 情報記録媒体の情報記録面に形成される前記第 2 スポットにおける光源の波長が変化した場合の集光スポットの色収差は、前記集光光学素

子により情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えられており、前記第 1 情報記録媒体の情報記録面に形成される前記第 1 スポット及び前記第 2 情報記録媒体の情報記録面に形成される前記第 2 スポットの温度変化により劣化する球面収差は、前記補正素子により情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えられていることを特徴とする請求項 1 6 に記載の光ピックアップ装置。

【請求項 1 8】 前記集光光学素子に設けられた回折構造のうち、前記第 1 光情報記録媒体と前記第 2 光情報記録媒体に対して情報の記録及び／又は再生を行う際に共通して光束が通過する領域に存在する回折輪帯の数  $N_1$  は、

$$144 / (2n) \leq N_1 \leq 176 / (2n) \quad (7)$$

(但し、 $2n$  は、波長  $\lambda_1$  の光束における回折効率が、発生する他の次数の回折光の回折効率より高い次数)

を満たすことを特徴とする請求項 1 2 に記載の光ピックアップ装置。

【請求項 1 9】 前記補正素子は、少なくとも一つの光学面に回折構造を有し、前記補正素子の回折構造における回折輪帯数  $N_2$  は、

$$30 / k \leq N_2 \leq 80 / k \quad (8)$$

(但し、 $k$  は、波長  $\lambda_2$  の光束における回折効率が、発生する他の次数の回折光の回折効率より高い次数)

を満たすことを特徴とする請求項 1 7 又は 1 8 に記載の光ピックアップ装置。

【請求項 2 0】 前記補正素子の回折構造の回折パワーは正であることを特徴とする請求項 1 6 乃至 1 9 のいずれかに記載の光ピックアップ装置。

【請求項 2 1】 前記第 1 光源からの光束に関する前記集光光学素子の焦点距離  $f_1$  は、

$$1.8 \text{ mm} \leq f_1 \leq 3.0 \text{ mm} \quad (9)$$

を満たすことを特徴とする請求項 1 乃至 2 0 のいずれかに記載の光ピックアップ装置。

【請求項 2 2】 前記集光光学素子と前記補正素子とを組み合わせた光学系の倍率  $m_t$  は、

$$-1/3 \leq m_t \leq -1/10 \quad (10)$$

を満たすことを特徴とする請求項 1 乃至 2 1 のいずれかに記載の光ピックアップ



装置。

【請求項 2 3】 光源波長の変動により劣化する球面収差を情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えるとは、光源波長 $\lambda$ が 1 0 n m 変化したときに、波面収差の球面収差変化量を  $0.065\lambda$  r m s 以下に抑えることであることを特徴とする請求項 1 乃至 2 2 のいずれかに記載の光ピックアップ装置。

【請求項 2 4】 光源の波長が変化した場合の集光スポットの色収差を、情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えるとは、光源波長 $\lambda$ が 1 n m 変動したときに、変化前の最良像面位置において波面収差を  $0.02\lambda$  r m s 以下に抑えることであることを特徴とする請求項 1 乃至 2 3 のいずれかに記載の光ピックアップ装置。

【請求項 2 5】 前記温度変化により劣化する球面収差を情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えるとは、温度が  $30^{\circ}\text{C}$  変化したときに、波面収差の球面収差変化量を  $0.04\lambda$  r m s 以下に抑えることであることを特徴とする請求項 1 乃至 2 4 のいずれかに記載の光ピックアップ装置。

【請求項 2 6】 前記第 1 光情報記録媒体に対して情報を記録及び／または再生するのに必要な前記集光光学素子の像側開口数を  $NA1$  としたときに、

$$0.63 \leq NA1 \leq 0.67 \quad (11)$$

を満たすことを特徴とする請求項 1 乃至 2 5 のいずれかに記載の光ピックアップ装置。

【請求項 2 7】 前記第 2 光情報記録媒体に対して情報を記録及び／または再生するのに必要な前記集光光学素子の像側開口数を  $NA2$  としたときに、

$$0.63 \leq NA2 \leq 0.67 \quad (12)$$

を満たすことを特徴とする請求項 1 乃至 2 6 のいずれかに記載の光ピックアップ装置。

【請求項 2 8】 前記第 1 光源における温度に対する波長の変動  $\Delta\lambda1/\Delta T$  は、

$$0.03 \text{ nm} \leq \Delta\lambda1/\Delta T \leq 0.1 \text{ nm} \quad (13)$$

を満たすことを特徴とする請求項 1 乃至 2 7 のいずれかに記載の光ピックアップ装置。

【請求項 2 9】 前記第 2 光源における温度に対する波長の変動  $\Delta \lambda 2 / \Delta T$  は、

$$0.15 \text{ nm} \leq \Delta \lambda 2 / \Delta T \leq 0.25 \text{ nm} \quad (14)$$

を満たすことを特徴とする請求項 1 乃至 2 8 のいずれかに記載の光ピックアップ装置。

【請求項 3 0】 波長  $\lambda 3$  ( $750 \text{ nm} < \lambda 3 < 800 \text{ nm}$ ) の第 3 光源を有し、前記集光光学系は、前記第 3 光源からの発散光束を、厚さ  $t 3$  の保護層を介して第 3 光情報記録媒体の情報記録面に集光させることによって、情報の記録及び／又は再生を行うことが可能となっていることを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれかに記載の光ピックアップ装置。

【請求項 3 1】 前記波長  $\lambda 3$  の入射光束に対する前記集光光学素子の光学系倍率は  $m o$  は、

$$-1/12 < m o < -1/14 \quad (15)$$

を満たすことを特徴とする請求項 3 0 に記載の光ピックアップ装置。

【請求項 3 2】 波長  $\lambda 3$  ( $750 \text{ nm} < \lambda 3 < 800 \text{ nm}$ ) の第 3 光源を有し、前記集光光学系は、前記第 3 光源からの発散光束を、厚さ  $t 3$  の保護層を介して第 3 光情報記録媒体の情報記録面に集光させることによって、情報の記録及び／又は再生を行うことが可能となっており、前記第 3 光源からの光束が通過したときに、 $(3m/2)$  次（但し  $3m/2$  は整数）回折光の回折効率が、発生する他の次数の回折光の回折効率より高くなることを特徴とする請求項 4, 7 乃至 1 5 のいずれかに記載の光ピックアップ装置。

【請求項 3 3】 前記波長  $\lambda 3$  の入射光束に対する前記集光光学素子の光学系倍率は  $m o$  は、

$$-1/12 < m o < -1/14 \quad (16)$$

を満たすことを特徴とする請求項 3 2 に記載の光ピックアップ装置。

【請求項 3 4】 波長  $\lambda 3$  ( $750 \text{ nm} < \lambda 3 < 800 \text{ nm}$ ) の第 3 光源を有し、前記集光光学系は、前記第 3 光源からの発散光束を、厚さ  $t 3$  の保護層を介して第 3 光情報記録媒体の情報記録面に集光させることによって、情報の記録及び／又は再生を行うことが可能となっており、前記第 3 光源からの光束が通過

したときに、4 p 次回折光の回折効率が、発生する他の次数の回折光の回折効率より高くなることを特徴とする請求項 5, 7 乃至 15 のいずれかに記載の光ピックアップ装置。

【請求項 35】 前記波長  $\lambda_3$  の入射光束に対する前記集光光学素子の光学系倍率は  $m_o$  は、

$$-1/12 < m_o < -1/14 \quad (17)$$

を満たすことを特徴とする請求項 34 に記載の光ピックアップ装置。

【請求項 36】 波長  $\lambda_3$  ( $750\text{ nm} < \lambda_3 < 800\text{ nm}$ ) の第 3 光源を有し、前記集光光学系は、前記第 3 光源からの発散光束を、厚さ  $t_3$  の保護層を介して第 3 光情報記録媒体の情報記録面に集光させることによって、情報の記録及び／又は再生を行うことが可能となっており、前記第 3 光源からの光束が通過したときに、n 次回折光の回折効率が、発生する他の次数の回折光の回折効率より高くなることを特徴とする請求項 16 乃至 20 のいずれかに記載の光ピックアップ装置。

【請求項 37】 前記第 2 光源と前記第 3 光源とは、前記集光光学素子からの光軸上の距離が等しくなる位置に配置されていることを特徴とする請求項 36 に記載の光ピックアップ装置。

【請求項 38】 前記波長  $\lambda_3$  の入射光束に対する前記集光光学素子の光学系倍率は  $m_o$  は、

$$-1/12 < m_o < -1/14 \quad (18)$$

を満たすことを特徴とする請求項 36 又は 37 に記載の光ピックアップ装置。

【請求項 39】 前記第 3 光源からの光束のみが通過する光路内に、前記第 3 光源からの光束の発散角又は収束角を変更するカップリングレンズを有することを特徴とする請求項 30 乃至 38 のいずれかに記載の光ピックアップ装置。

【請求項 40】 波長  $\lambda_1$  ( $380\text{ nm} < \lambda_1 < 450\text{ nm}$ ) の第 1 光源と、集光光学系とを有し、前記集光光学系が、回折構造を有する集光光学素子と、前記第 1 光源と前記集光光学素子との間に配置された補正素子とを備え、前記集光光学系が、前記第 1 光源からの光束を、厚さ  $t_1$  の保護層を介して第 1 光情報記録媒体の情報記録面に集光させることによって、情報の記録及び／又は再生を

行うことが可能となる光ピックアップ装置において、

前記第 1 光情報記録媒体の情報記録面に形成された前記第 1 スポットにおいて前記第 1 光源の波長変化により劣化する球面収差と、温度変化により劣化する球面収差とが、情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えられていることを特徴とする光ピックアップ装置。

【請求項 4 1】 前記集光光学素子は、前記第 1 光源からの光束を集光するための集光光学素子を含み、前記集光光学素子の少なくとも一つの光学面の一部には、回折構造が形成されており、前記第 1 光源からの光束が前記集光光学素子の回折構造を通過したときに回折効率が最大となる回折光の次数を  $K_{BOL}$  とし、前記集光光学素子の回折構造の輪帯数を  $n_{BOL}$  としたときに、

$$90 < n_{BOL} \cdot K_{BOL} < 130 \quad (19)$$

を満たすことを特徴とする請求項 4 0 に記載の光ピックアップ装置。

【請求項 4 2】 前記補正素子の少なくとも一つの光学面の一部には、回折構造が形成されており、前記第 1 光源からの光束が前記補正素子の回折構造を通過したときに回折効率が最大となる回折光の次数を  $K_{COL}$  とし、前記補正素子の回折構造の輪帯数を  $n_{COL}$  としたときに、

$$30 < n_{COL} \cdot K_{COL} < 130 \quad (20)$$

を満たすことを特徴とする請求項 4 0 又は 4 1 に記載の光ピックアップ装置。

【請求項 4 3】 前記第 1 光情報記録媒体の情報記録面に形成された前記第 1 スポットにおいて、光源の波長が変化した場合の集光スポットの色収差が、情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えられていることを特徴とする請求項 4 0 乃至 4 2 のいずれかに記載の光ピックアップ装置。

【請求項 4 4】 前記第 1 光情報記録媒体の保護層の厚さ  $t_1$  は、

$$0.5 \text{ mm} \leq t_1 \leq 0.7 \text{ mm} \quad (21)$$

を満たすことを特徴とする請求項 4 0 乃至 4 3 のいずれかに記載の光ピックアップ装置。

【請求項 4 5】 前記第 1 光源からの光束に関する前記集光光学素子の焦点距離  $f_1$  は、

$$1.8 \text{ mm} \leq f_1 \leq 3.0 \text{ mm} \quad (22)$$

を満たすことを特徴とする請求項 4 0 乃至 4 4 のいずれかに記載の光ピックアップ装置。

【請求項 4 6】 前記集光光学素子と前記補正素子とを組み合わせた光学系の倍率  $m_t$  は、

$$-1/3 \leq m_t \leq -1/10 \quad (23)$$

)

を満たすことを特徴とする請求項 4 0 乃至 4 5 のいずれかに記載の光ピックアップ装置。

【請求項 4 7】 前記光源波長の変動により劣化する球面収差を情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えるとは、光源波長  $\lambda$  が 1 0 n m 変化したときに、波面収差の球面収差変化量を  $0.07 \lambda \text{ rms}$  以下に抑えることであることを特徴とする請求項 4 0 乃至 4 6 のいずれかに記載の光ピックアップ装置。

【請求項 4 8】 光源の波長が変化した場合の集光スポットの色収差を、情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えるとは、光源波長  $\lambda$  が 1 n m 変動したときに、変化前の最良像面位置において波面収差を  $0.02 \lambda \text{ rms}$  以下に抑えることであることを特徴とする請求項 4 0 乃至 4 7 のいずれかに記載の光ピックアップ装置。

【請求項 4 9】 前記温度変化により劣化する球面収差を情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えるとは、温度が 3 0 °C 変化したときに、波面収差の球面収差変化量を  $0.04 \lambda \text{ rms}$  以下に抑えることであることを特徴とする請求項 4 0 乃至 4 8 のいずれかに記載の光ピックアップ装置。

【請求項 5 0】 前記第 1 光情報記録媒体に対して情報を記録及び／または再生するのに必要な前記集光光学素子の像側開口数を  $NA_1$  としたときに、

$$0.63 \leq NA_1 \leq 0.67 \quad (24)$$

を満たすことを特徴とする請求項 4 0 乃至 4 9 のいずれかに記載の光ピックアップ装置。

【請求項 5 1】 前記第 1 光源における温度に対する波長の変動  $\Delta \lambda_1 / \Delta T$  は、

$$0.03 \text{ nm} \leq \Delta \lambda_1 / \Delta T \leq 0.1 \text{ nm} \quad (25)$$

を満たすことを特徴とする請求項 4 0 乃至 5 0 のいずれかに記載の光ピックアップ装置。

【請求項 5 2】 請求項 1 乃至 5 1 のいずれかに記載の光ピックアップ装置に用いることを特徴とする集光光学素子。

【請求項 5 3】 請求項 1 乃至 5 1 のいずれかに記載の光ピックアップ装置に用いることを特徴とする補正素子。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明は、光ピックアップ装置及びそれに用いる光学素子に関し、特に、青紫色レーザ及びそれ以外のレーザを用いて情報の記録及び／又は再生が可能な光ピックアップ装置及びそれに用いる光学素子に関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

近年、短波長赤色半導体レーザの実用化に伴い、従来の光ディスク（光情報記録媒体ともいう）である、C D（コンパクトディスク）と同程度の大きさで大容量化させた高密度の光ディスクである D V D（デジタルバーサタイルディスク）が開発・製品化されているが、近い将来には、より高密度な次世代の光ディスクが登場することが予想される。このような次世代の光ディスクを媒体とした光情報記録再生装置（光ピックアップ装置ともいう）の集光光学系では、記録信号の高密度化を図るため、或いは高密度記録信号を再生するため、対物レンズを介して情報記録面上に集光するスポットの径を小さくすることが要求される。そのためには、光源であるレーザの短波長化や対物レンズの高開口数化が必要となる。短波長レーザ光源としてその実用化が期待されているのは、波長 4 0 0 n m 程度の青紫色半導体レーザである。

【 0 0 0 3 】

このような波長 4 0 0 n m 程度の青紫色半導体レーザを用いて、情報の記録／再生を行える高密度光ディスクシステムの研究・開発が進んでいる。一例として、N A 0. 8 5、光源波長 4 0 5 n m の仕様で情報記録／再生を行う光ディスク

(以下、本明細書ではかかる光ディスクを「高密度DVD」と呼ぶ)では、DVD (NA 0. 6、光源波長 650 nm、記憶容量 4. 7 GB) と同じ大きさである直径 12 cm の光ディスクに対して、1 面あたり 20 ～ 30 GB の情報の記録が可能である。

#### 【0004】

ここで、かかる高密度DVD用の光ピックアップ装置において、高NAの対物レンズをプラスチックレンズとした場合、温度変化に伴う屈折率変化により発生する球面収差が問題となる。かかる問題は、温度変化に伴う屈折率変化において、プラスチックレンズがガラスレンズに比べて2桁程度大きいことに起因して発生する。この温度収差は、NAの4乗に比例するので、高密度DVDに用いられるNA 0. 85の対物レンズをプラスチックレンズとした場合には、使用可能な温度範囲が非常に狭くなってしまうので、実使用上問題となる。又、半導体レーザは、モードホップと呼ばれる波長変動現象を本来的に引き起こすため、モードホップが生じても情報記録面上の集光スポットにおける収差を抑制する必要がある。加えて、一般に半導体レーザは、発信波長の個体間バラツキがあるが、ある程度バラツキのある半導体レーザと対物レンズの組み合わせでも、情報の記録／再生を可能とする程度に適切な集光スポットを形成する必要がある。そのためには、何らかの手法によって、光源波長変動によって生じる球面収差を抑制しなくてはならない。

#### 【0005】

更に、このように高密度DVDに対して適切に情報を記録／再生できるというだけでは、光ピックアップ装置の製品としての価値は十分なものとはいえない。現在において、多種多様な情報を記録したDVDが販売されている現実をふまえると、高密度DVDに対して適切に情報を記録／再生できるだけではならず、例えばユーザーが所有している従来のDVDに対しても同様に適切に情報を記録／再生できるようにすることが、互換タイプの光ピックアップ装置として製品の価値を高めることに通じるのである。このような背景から、互換タイプの光ピックアップ装置に用いる集光光学系は、高密度DVDに対して情報を記録／再生する際にその情報記録面に形成された集光スポットにおいて、温度変化に起因した収

差劣化、波長変動に起因した収差劣化、及びモードホップ時の収差劣化（又は色収差）を全て適正に抑える必要があると共に、従来のDVDに対して情報を記録／再生する際にその情報記録面に形成された集光スポットにおいて、温度変化に起因した収差劣化、波長変動に起因した収差劣化、及びモードホップ時の収差劣化（又は色収差）を全て適正に抑える必要があるといえる。しかるに、このような複数の収差条件を単一の集光光学系で満足させることは極めて困難といえる。しかしながら、青紫色レーザー光と従来のレーザー光とをそれぞれ別個に集光するために、個々に対物レンズを含む集光光学系を2つ設けると、光ピックアップ装置の大型化を招き、又コストも増大するという問題がある。尚、青紫色レーザー光と従来のレーザー光とを単一の集光光学系で集光させる構成は、例えば以下の特許文献1に開示されているが、温度特性や波長特性を考慮した設計について開示がない。

【特許文献1】

特開2000-93179

【0006】

本発明は、かかる問題点に鑑みて成されたものであり、コンパクトな構成を有しながらも、高密度DVDに対して、或いは高密度DVDと従来のDVDの双方に対して適切に情報の記録及び／再生を行える光ピックアップ装置及び、それに用いることのできる光学系を提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】

請求項1に記載の光ピックアップ装置は、波長 $\lambda_1$  ( $380\text{ nm} < \lambda_1 < 450\text{ nm}$ ) の第1光源と、波長 $\lambda_2$  ( $600\text{ nm} < \lambda_2 < 700\text{ nm}$ ) の第2光源と、集光光学系とを有し、前記集光光学系が、回折構造を有する集光光学素子と、前記第1光源及び／又は前記第2光源と前記集光光学素子との間に配置された補正素子とを備え、前記集光光学系が、前記第1光源からの光束を、厚さ $t_1$ の保護層を介して第1光情報記録媒体の情報記録面に集光させることによって、情報の記録及び／又は再生を行うことが可能となっており、且つ前記第2光源からの光束を、厚さ $t_2$ の保護層を介して第2光情報記録媒体の情報記録面に集光さ



せることによって、情報の記録及び／又は再生を行うことが可能となっている光ピックアップ装置において、前記第 1 光源からの光束が前記集光光学素子の回折構造を通過することにより発生する  $N$  次回折光を用いて、前記第 1 光情報記録媒体の情報記録面に第 1 スポットが形成され、前記第 2 光源からの光束が前記集光光学素子の回折構造を通過することにより発生する  $M$  ( $M \neq N$ ) 次回折光を用いて、前記第 2 光情報記録媒体の情報記録面に第 2 スポットが形成され、前記第 1 光情報記録媒体の情報記録面に形成された前記第 1 スポットにおいて前記第 1 光源の波長変化により劣化する球面収差と、温度変化により劣化する球面収差とが、情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えられ、前記第 2 光情報記録媒体の情報記録面に形成された前記第 2 スポットにおいて、前記第 2 光源の波長変化により劣化する球面収差と、温度変化により劣化する球面収差とが、情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えられているものである。すなわち、前記集光光学素子単体のみでは、波長  $\lambda_1$  の光源からの光束と、波長  $\lambda_2$  の光源からの光束の双方に対して、各条件において収差劣化のない集光スポットを形成することが困難という実情に鑑み、本発明では、前記集光光学素子の回折構造と、前記補正素子とを用いて、各収差劣化をバランス良く抑えることで、例えば高密度 DVD と従来の DVD の双方に対して適切に情報の記録及び／再生を行うようにしているのである。尚、後述するように、前記補正素子は、前記第 1 光源からの光束のみを通過させる場合と、前記第 1 光源からの光束のみを通過させる場合と、双方の光源からの光束を通過させる場合とが存在する。

## 【 0 0 0 8 】

請求項 2 に記載の光ピックアップ装置は、前記第 1 光情報記録媒体の情報記録面に形成された前記第 1 スポットにおいて、光源の波長が変化した場合における集光スポットの色収差が、情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えられ、前記第 2 光情報記録媒体の情報記録面に形成された前記第 2 スポットにおいて、光源の波長が変化した場合における集光スポットの色収差が、情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えられているので、例えば高密度 DVD と従来の DVD の双方に対して適切に情報の記録及び／再生を行うことができる。

## 【 0 0 0 9 】

請求項 3 に記載の光ピックアップ装置は、前記第 1 光情報記録媒体の保護層の厚さ  $t_1$  及び前記第 2 光情報記録媒体の保護層の厚さ  $t_2$  は、それぞれ、

$$0.5\text{ mm} \leq t_1 \leq 0.7\text{ mm} \quad (1)$$

$$0.5\text{ mm} \leq t_2 \leq 0.7\text{ mm} \quad (2)$$

を満たすと好ましい。

【 0 0 1 0 】

請求項 4 に記載の光ピックアップ装置は、前記集光光学素子の少なくとも一つの光学面の一部における、前記第 1 光情報記録媒体と前記第 2 光情報記録媒体に対して情報の記録及び／又は再生を行う際に共通して光束が通過する領域に前記回折構造が設けられ、前記第 1 光源からの光束が通過したときに、 $3m$  ( $m$  は正の整数、以下同じ) 次回折光の回折効率が、発生する他の次数の回折光の回折効率より高くなり、前記第 2 光源からの光束が通過したときに、 $2m$  次回折光の回折効率が、発生する他の次数の回折光の回折効率より高くなると好ましい。

【 0 0 1 1 】

請求項 5 に記載の光ピックアップ装置は、前記集光光学素子の少なくとも一つの光学面の一部における、前記第 1 光情報記録媒体と前記第 2 光情報記録媒体に対して情報の記録及び／又は再生を行う際に共通して光束が通過する領域に前記回折構造が設けられ、前記第 1 光源からの光束が通過したときに、 $8p$  ( $p$  は正の整数、以下同じ) 次回折光の回折効率が、発生する他の次数の回折光の回折効率より高くなり、前記第 2 光源からの光束が通過したときに、 $5p$  次回折光の回折効率が、発生する他の次数の回折光の回折効率より高くなると好ましい。

【 0 0 1 2 】

請求項 6 に記載の光ピックアップ装置は、前記集光光学素子の少なくとも一つの光学面の一部における、前記第 1 光情報記録媒体と前記第 2 光情報記録媒体に対して情報の記録及び／又は再生を行う際に共通して光束が通過する領域に前記回折構造が設けられ、前記第 1 光源からの光束が通過したときに、 $2n$  ( $n$  は正の整数、以下同じ) 次回折光の回折効率が、発生する他の次数の回折光の回折効率より高くなり、前記第 2 光源からの光束が通過したときに、 $n$  次回折光の回折効率が、発生する他の次数の回折光の回折効率より高くなると好ましい。

## 【 0 0 1 3 】

請求項 7 に記載の光ピックアップ装置は、前記補正素子は、前記第 1 光源からの光束のみが通過する光路内、又は前記第 2 光源からの光束のみが通過する光路内に配置されていると好ましい。

## 【 0 0 1 4 】

請求項 8 に記載の光ピックアップ装置は、前記補正素子は、前記第 2 光源からの光束のみが通過する光路内に配置されており、前記第 1 情報記録媒体の情報記録面に形成される前記第 1 スポットにおける光源の波長が変化した場合の集光スポットの色収差は、前記集光光学素子により情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えられており、前記第 2 情報記録媒体の情報記録面に形成される前記第 2 スポットにおける光源の波長が変化した場合の集光スポットの色収差は、前記補正素子により情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えられていると好ましい。

## 【 0 0 1 5 】

請求項 9 に記載の光ピックアップ装置は、前記集光光学素子に設けられた回折構造のうち、前記第 1 光情報記録媒体と前記第 2 光情報記録媒体に対して情報の記録及び／又は再生を行う際に共通して光束が通過する領域に存在する回折輪帯の数  $N_1$  は、

$$1.15 / A \leq N_1 \leq 1.55 / A \quad (3)$$

(但し、 $A$  は  $3 \mu$  または  $8 \mu$  であり、波長  $\lambda_1$  の光束における回折効率が、発生する他の次数の回折光の回折効率より高い次数) を満たすと好ましい。

## 【 0 0 1 6 】

請求項 10 に記載の光ピックアップ装置は、前記補正素子は、少なくとも一つの光学面に回折構造を有し、前記補正素子の回折構造における回折輪帯数  $N_2$  は、

$$1.5 / k \leq N_2 \leq 4.5 / k \quad (4)$$

(但し、 $k$  は、波長  $\lambda_2$  の光束における回折効率が、発生する他の次数の回折光の回折効率より高い次数)

を満たすと好ましい。

【 0 0 1 7 】

請求項 1 1 に記載の光ピックアップ装置は、前記補正素子の回折構造の回折パワーは正であると好ましい。

【 0 0 1 8 】

請求項 1 2 に記載の光ピックアップ装置は、前記補正素子は、前記第 1 光源からの光束のみが通過する光路内に配置されており、前記第 1 情報記録媒体の情報記録面に形成される前記第 1 スポットにおける光源の波長が変化した場合の集光スポットの色収差は、前記補正素子により情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えられており、前記第 2 情報記録媒体の情報記録面に形成される前記第 2 スポットにおける光源の波長が変化した場合の集光スポットの色収差は、前記集光光学素子により情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えられていると好ましい。

【 0 0 1 9 】

請求項 1 3 に記載の光ピックアップ装置は、前記集光光学素子に設けられた回折構造のうち、前記第 1 光情報記録媒体と前記第 2 光情報記録媒体に対して情報の記録及び／又は再生を行う際に共通して光束が通過する領域に存在する回折輪帯の数  $N_1$  は、

$$4.5 / A \leq N_1 \leq 6.5 / A \quad (5)$$

(但し、 $A$  は  $3 \mu$  または  $8 \mu$  であり、波長  $\lambda_1$  の光束における回折効率が、発生する他の次数の回折光の回折効率より高い次数)  
を満たすと好ましい。

【 0 0 2 0 】

請求項 1 4 に記載の光ピックアップ装置は、前記補正素子は、少なくとも一つの光学面に回折構造を有し、前記補正素子の回折構造における回折輪帯数  $N_2$  は、

$$3.0 / k \leq N_2 \leq 8.0 / k \quad (6)$$

(但し、 $k$  は、波長  $\lambda_2$  の光束における回折効率が、発生する他の次数の回折光の回折効率より高い次数)

を満たすと好ましい。

【 0 0 2 1 】

請求項 1 5 に記載の光ピックアップ装置は、前記補正素子の回折構造の回折パワーは負であると好ましい。

【 0 0 2 2 】

請求項 1 6 に記載の光ピックアップ装置は、前記補正素子は、前記第 1 光源からの光束が通過する光路及び前記第 2 光源からの光束が通過する光路内に配置されていると好ましい。

【 0 0 2 3 】

請求項 1 7 に記載の光ピックアップ装置は、前記第 1 情報記録媒体の情報記録面に形成される前記第 1 スポット及び前記第 2 情報記録媒体の情報記録面に形成される前記第 2 スポットにおける光源の波長が変化した場合の集光スポットの色収差は、前記集光光学素子により情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えられており、前記第 1 情報記録媒体の情報記録面に形成される前記第 1 スポット及び前記第 2 情報記録媒体の情報記録面に形成される前記第 2 スポットの温度変化により劣化する球面収差は、前記補正素子により情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えられていると好ましい。

【 0 0 2 4 】

請求項 1 8 に記載の光ピックアップ装置は、前記集光光学素子に設けられた回折構造のうち、前記第 1 光情報記録媒体と前記第 2 光情報記録媒体に対して情報の記録及び／又は再生を行う際に共通して光束が通過する領域に存在する回折輪帯の数  $N_1$  は、

$$144 / (2n) \leq N_1 \leq 176 / (2n) \quad (7)$$

(但し、 $2n$  は、波長  $\lambda_1$  の光束における回折効率が、発生する他の次数の回折光の回折効率より高い次数)

を満たすと好ましい。

【 0 0 2 5 】

請求項 1 9 に記載の光ピックアップ装置は、前記補正素子は、少なくとも一つの光学面に回折構造を有し、前記補正素子の回折構造における回折輪帯数  $N_2$  は

$$30/k \leq N2 \leq 80/k \quad (8)$$

(但し、 $k$ は、波長 $\lambda_2$ の光束における回折効率が、発生する他の次数の回折光の回折効率より高い次数)を満たすと好ましい。

## 【0026】

請求項20に記載の光ピックアップ装置は、前記補正素子の回折構造の回折パワーは正であると好ましい。

## 【0027】

請求項21に記載の光ピックアップ装置は、前記第1光源からの光束に関する前記集光光学素子の焦点距離 $f_1$ は、

$$1.8\text{ mm} \leq f_1 \leq 3.0\text{ mm} \quad (9)$$

を満たすと好ましい。

## 【0028】

請求項22に記載の光ピックアップ装置は、前記集光光学素子と前記補正素子とを組み合わせた光学系の倍率 $m_t$ は、

$$-1/3 \leq m_t \leq -1/10 \quad (10)$$

を満たすと好ましい。

## 【0029】

請求項23に記載の光ピックアップ装置は、前記光源波長の変動により劣化する球面収差を情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えろとは、光源波長 $\lambda$ が10nm変化したときに、波面収差の球面収差変化量を $0.07\lambda\text{ rms}$ 以下に抑えることであると好ましい。

## 【0030】

請求項24に記載の光ピックアップ装置は、光源の波長が変化した場合の集光スポットの色収差を、情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えろとは、光源波長 $\lambda$ が1nm変動したときに、変化前の最良像面位置において波面収差を $0.02\lambda\text{ rms}$ 以下に抑えることであると好ましい。

## 【0031】

請求項 2 5 に記載の光ピックアップ装置は、前記温度変化により劣化する球面収差を情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えるとは、温度が 3 0℃ 変化したときに、波面収差の球面収差変化量を  $0.04\lambda_{rms}$  以下に抑えることであると好ましい。尚、本明細書中、 $\lambda$  とは入射光束の光源波長をいうものとする。

## 【 0 0 3 2 】

請求項 2 6 に記載の光ピックアップ装置は、前記第 1 光情報記録媒体に対して情報を記録及び／または再生するのに必要な前記集光光学素子の像側開口数を  $NA1$  としたときに、

$$0.63 \leq NA1 \leq 0.67 \quad (11)$$

を満たすと好ましい。

## 【 0 0 3 3 】

請求項 2 7 に記載の光ピックアップ装置は、前記第 2 光情報記録媒体に対して情報を記録及び／または再生するのに必要な前記集光光学素子の像側開口数を  $NA2$  としたときに、

$$0.63 \leq NA2 \leq 0.67 \quad (12)$$

を満たすと好ましい。

## 【 0 0 3 4 】

請求項 2 8 に記載の光ピックアップ装置は、前記第 1 光源における温度に対する波長の変動  $\Delta\lambda1 / \Delta T$  は、

$$0.03\text{ nm} \leq \Delta\lambda1 / \Delta T \leq 0.1\text{ nm} \quad (13)$$

を満たすと好ましい。

## 【 0 0 3 5 】

請求項 2 9 に記載の光ピックアップ装置は、前記第 2 光源における温度に対する波長の変動  $\Delta\lambda2 / \Delta T$  は、

$$0.15\text{ nm} \leq \Delta\lambda2 / \Delta T \leq 0.25\text{ nm} \quad (14)$$

を満たすと好ましい。

## 【 0 0 3 6 】

請求項 3 0 に記載の光ピックアップ装置は、波長  $\lambda3$  ( $750\text{ nm} < \lambda3 < 8$

0 0 n m) の第 3 光源を有し、前記集光光学系は、前記第 3 光源からの発散光束を、厚さ  $t_3$  の保護層を介して第 3 光情報記録媒体の情報記録面に集光させることによって、情報の記録及び／又は再生を行うことが可能となっており、例えば高密度 DVD、従来の DVD に加え、更に CD に対しても情報の記録／再生が可能となる。

## 【 0 0 3 7 】

請求項 3 1 に記載の光ピックアップ装置は、前記波長  $\lambda_3$  の入射光束に対する前記集光光学素子の光学系倍率は  $m_o$  は、

$$-1/12 < m_o < -1/14 \quad (15)$$

を満たすと好ましい。

## 【 0 0 3 8 】

請求項 3 2 に記載の光ピックアップ装置は、波長  $\lambda_3$  ( $750 \text{ nm} < \lambda_3 < 800 \text{ nm}$ ) の第 3 光源を有し、前記集光光学系は、前記第 3 光源からの発散光束を、厚さ  $t_3$  の保護層を介して第 3 光情報記録媒体の情報記録面に集光させることによって、情報の記録及び／又は再生を行うことが可能となっており、前記第 3 光源からの光束が通過したときに、 $(3m/2)$  次 (但し  $3m/2$  は整数) 回折光の回折効率が、発生する他の次数の回折光の回折効率より高くなると好ましい。

## 【 0 0 3 9 】

請求項 3 3 に記載の光ピックアップ装置は、前記波長  $\lambda_3$  の入射光束に対する前記集光光学素子の光学系倍率は  $m_o$  は、

$$-1/12 < m_o < -1/14 \quad (16)$$

を満たすと好ましい。

## 【 0 0 4 0 】

請求項 3 4 に記載の光ピックアップ装置は、波長  $\lambda_3$  ( $750 \text{ nm} < \lambda_3 < 800 \text{ nm}$ ) の第 3 光源を有し、前記集光光学系は、前記第 3 光源からの発散光束を、厚さ  $t_3$  の保護層を介して第 3 光情報記録媒体の情報記録面に集光させることによって、情報の記録及び／又は再生を行うことが可能となっており、前記第 3 光源からの光束が通過したときに、 $n$  次回折光の回折効率が、発生する他の次



数の回折光の回折効率より高くなると好ましい。

【 0 0 4 1 】

請求項 3 5 に記載の光ピックアップ装置は、前記波長  $\lambda_3$  の入射光束に対する前記集光光学素子の光学系倍率は  $m_o$  は、

$$-1/12 < m_o < -1/14 \quad (17)$$

を満たすと好ましい。

【 0 0 4 2 】

請求項 3 6 に記載の光ピックアップ装置は、波長  $\lambda_3$  ( $750 \text{ nm} < \lambda_3 < 800 \text{ nm}$ ) の第 3 光源を有し、前記集光光学系は、前記第 3 光源からの発散光束を、厚さ  $t_3$  の保護層を介して第 3 光情報記録媒体の情報記録面に集光させることによって、情報の記録及び／又は再生を行うことが可能となっており、前記第 3 光源からの光束が通過したときに、 $n$  次回折光の回折効率が、発生する他の次数の回折光の回折効率より高くなると好ましい。

【 0 0 4 3 】

請求項 3 7 に記載の光ピックアップ装置は、前記第 2 光源と前記第 3 光源とは、前記集光光学素子からの光軸上の距離が等しくなる位置に配置されていると好ましい。尚、「集光光学素子からの光軸上の距離が等しくなる位置に配置されている」とは、例えば 2 レーザ 1 パッケージのように、半導体レーザである前記第 2 光源と前記第 3 光源とが、光軸に直交する同一基板上に設置されたごとき状態をいう。

【 0 0 4 4 】

請求項 3 8 に記載の光ピックアップ装置は、前記波長  $\lambda_3$  の入射光束に対する前記集光光学素子の光学系倍率は  $m_o$  は、

$$-1/12 < m_o < -1/14 \quad (18)$$

を満たすと好ましい。

【 0 0 4 5 】

請求項 3 9 に記載の光ピックアップ装置は、前記第 3 光源からの光束のみが通過する光路内に、前記第 3 光源からの光束の発散角又は収束角を変更するカップリングレンズを有すると、前記第 3 の光情報記録媒体に対しても適切に情報の記

録／再生を行うことができる。

【 0 0 4 6 】

請求項 4 0 に記載の光ピックアップ装置は、波長  $\lambda_1$  ( $380\text{ nm} < \lambda_1 < 450\text{ nm}$ ) の第 1 光源と、集光光学系とを有し、前記集光光学系が、回折構造を有する集光光学素子と、前記第 1 光源と前記集光光学素子との間に配置された補正素子とを備え、前記集光光学系が、前記第 1 光源からの光束を、厚さ  $t_1$  の保護層を介して第 1 光情報記録媒体の情報記録面に集光させることによって、情報の記録及び／又は再生を行うことが可能となる光ピックアップ装置において、前記第 1 光情報記録媒体の情報記録面に形成された前記第 1 スポットにおいて前記第 1 光源の波長変化により劣化する球面収差と、温度変化により劣化する球面収差とが、情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えられているので、例えば高密度 DVD に対して適切に情報の記録／再生を行うことができる。

【 0 0 4 7 】

請求項 4 1 に記載の光ピックアップ装置は、前記集光光学素子は、前記第 1 光源からの光束を集光するための集光光学素子を含み、前記集光光学素子の少なくとも一つの光学面の一部には、回折構造が形成されており、前記第 1 光源からの光束が前記集光光学素子の回折構造を通過したときに回折効率が最大となる回折光の次数を  $K_{BOL}$  とし、前記集光光学素子の回折構造の輪帯数を  $n_{BOL}$  としたときに、

$$90 < n_{BOL} \cdot K_{BOL} < 130 \quad (19)$$

を満たすと好ましい。

【 0 0 4 8 】

請求項 4 2 に記載の光ピックアップ装置は、前記補正素子の少なくとも一つの光学面の一部には、回折構造が形成されており、前記第 1 光源からの光束が前記補正素子の回折構造を通過したときに回折効率が最大となる回折光の次数を  $K_{COL}$  とし、前記補正素子の回折構造の輪帯数を  $n_{COL}$  としたときに、

$$30 < n_{COL} \cdot K_{COL} < 130 \quad (20)$$

を満たすと好ましい。

【 0 0 4 9 】

請求項 4 3 に記載の光ピックアップ装置は、前記第 1 光情報記録媒体の情報記録面に形成された前記第 1 スポットにおいて、光源の波長が変化した場合の集光スポットの色収差が、情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えられていると好ましい。

【 0 0 5 0 】

請求項 4 4 に記載の光ピックアップ装置は、前記第 1 光情報記録媒体の保護層の厚さ  $t_1$  は、

$$0.5 \text{ mm} \leq t_1 \leq 0.7 \text{ mm} \quad (21)$$

を満たすと好ましい。

【 0 0 5 1 】

請求項 4 5 に記載の光ピックアップ装置は、前記第 1 光源からの光束に関する前記集光光学素子の焦点距離  $f_1$  は、

$$1.8 \text{ mm} \leq f_1 \leq 3.0 \text{ mm} \quad (22)$$

を満たすと好ましい。

【 0 0 5 2 】

請求項 4 6 に記載の光ピックアップ装置は、前記集光光学素子と前記補正素子とを組み合わせた光学系の倍率  $m_t$  は、

$$-1/3 \leq m_t \leq -1/10 \quad (23)$$

)

を満たすと好ましい。

【 0 0 5 3 】

請求項 4 7 に記載の光ピックアップ装置は、前記光源波長の変動により劣化する球面収差を情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えるとは、光源波長  $\lambda$  が  $10 \text{ nm}$  変化したときに、波面収差の球面収差変化量を  $0.07 \lambda \text{ rms}$  以下に抑えることであると好ましい。

【 0 0 5 4 】

請求項 4 8 に記載の光ピックアップ装置は、光源の波長が変化した場合の集光スポットの色収差を、情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えるとは、光源波長  $\lambda$  が  $1 \text{ nm}$  変動したときに、変化前の最良像面位置において波面収差を 0

． 0.2  $\lambda$  r m s 以下に抑えることであると好ましい。

【 0 0 5 5 】

請求項 4 9 に記載の光ピックアップ装置は、前記温度変化により劣化する球面収差を情報の記録及び／又は再生に必要な範囲に抑えるとは、温度が 3 0℃ 変化したときに、波面収差の球面収差変化量を 0.04  $\lambda$  r m s 以下に抑えることであると好ましい。

【 0 0 5 6 】

請求項 5 0 に記載の光ピックアップ装置は、前記第 1 光情報記録媒体に対して情報を記録及び／または再生するのに必要な前記集光光学素子の像側開口数を N A 1 としたときに、

$$0.63 \leq N A 1 \leq 0.67 \quad (24)$$

を満たすと好ましい。

【 0 0 5 7 】

請求項 5 1 に記載の光ピックアップ装置は、前記第 1 光源における温度に対する波長の変動  $\Delta \lambda 1 / \Delta T$  は、

$$0.03 \text{ nm} \leq \Delta \lambda 1 / \Delta T \leq 0.1 \text{ nm} \quad (25)$$

を満たすと好ましい。

【 0 0 5 8 】

請求項 5 2 に記載の集光光学素子は、請求項 1 乃至 5 1 のいずれかに記載の光ピックアップ装置に用いることを特徴とする。

【 0 0 5 9 】

請求項 5 3 に記載の補正素子は、請求項 1 乃至 5 1 のいずれかに記載の光ピックアップ装置に用いることを特徴とする。

【 0 0 6 0 】

本明細書中で用いる「回折構造」とは、集光光学素子又は補正素子の表面に、レリーフを設けて、回折によって光束を集光あるいは発散させる作用を持たせた部分のことをいう。レリーフの形状としては、集光光学素子又は補正素子の表面に、光軸を中心とする略同心円状の輪帯として形成され、光軸を含む平面でその断面をみれば各輪帯は鋸歯のような形状が知られているが、そのような形状を含

むものであり、そのような形状を特に「回折輪帯」という。

#### 【0061】

回折構造が、集光光学素子、補正素子に2面以上形成されている場合には、式(3)、(4)、(5)、・・・の回折輪帯数は、各面の回折輪帯数の総和とする。

#### 【0062】

本明細書中において、集光光学素子とは、狭義には光ピックアップ装置に光情報記録媒体を装填した状態において、最も光情報記録媒体側の位置で、これと対向すべく配置される集光作用を有するレンズ（例えば対物レンズ）を指し、広義にはそのレンズと共に、アクチュエータによって少なくともその光軸方向に作動可能なレンズを指すものとする。従って、本明細書中において、集光光学素子の光情報記録媒体側（像側）の開口数NAとは、集光光学素子の最も光情報記録媒体側に位置する面の開口数NAを指すものである。また、本明細書中では必要開口数NAは、それぞれの光情報記録媒体の規格で規定されている開口数、あるいはそれぞれの光情報記録媒体に対して、使用する光源の波長に応じ、情報の記録または再生をするために必要なスポット径を得ることができる回折限界性能の対物レンズの開口数を示すものとする。

#### 【0063】

本明細書中において、第1光情報記録媒体とは、例えば、高密度DVD系の光ディスクをいい、第2光情報記録媒体とは、再生専用を用いるDVD-ROM、DVD-Videoの他、再生／記録を兼ねるDVD-RAM、DVD-R、DVD-RW等の各種DVD系の光ディスクを含むものである。又、第3光情報記録媒体とは、CD-R、CD-RW等のCD系の光ディスクをいう。更に、本明細書中で保護層の厚さtといった時は、 $t = 0$ を含むものである。

#### 【0064】

#### 【発明の実施の形態】

以下、図面を参照して、本発明をさらに詳細に説明する。図1は、高密度DVD（第1の光ディスクともいう）と従来のDVD（第2の光ディスクともいう）の双方に対して情報の記録／再生を行える、第1の実施の形態にかかる光情報記

録再生装置又は光ピックアップ装置の概略構成図である。図 1 においては、第 1 光源としての第 1 半導体レーザ 1 1 1 (波長  $\lambda_1 = 380 \text{ nm} \sim 450 \text{ nm}$ ) から出射された光束は、1/4 波長板 1 1 3 及び第 1 のビームスプリッタ 1 1 4 を透過し、補正素子であるコリメータ 1 1 5 で平行光束に変換された後、更に第 2 のビームスプリッタ 1 1 6 を通過し、さらに絞り 1 7 によって絞られ、集光光学素子としての対物レンズ 1 6 により第 1 の光ディスク 2 0 の保護層 2 1 (厚さ  $t_1 = 0.5 \sim 0.7 \text{ mm}$ ) を介して情報記録面 2 2 に集光される。

## 【 0 0 6 5 】

そして情報記録面 2 2 で情報ピットにより変調されて反射した光束は、再び対物レンズ 1 6、絞り 1 7 を透過して、第 2 のビームスプリッタ 1 1 6、コリメータ 1 1 5 を通過し、第 1 のビームスプリッタ 1 1 4 に入射し、ここで反射され、シリンドリカルレンズ 1 1 7 で非点収差が与えられ、凹レンズ 1 1 8 を介して光検出器 1 1 9 上へ入射し、その出力信号を用いて、第 1 の光ディスク 2 0 に情報記録された情報の読み取り信号が得られる。

## 【 0 0 6 6 】

また、光検出器 1 1 9 上でのスポットの形状変化、位置変化による光量変化を検出して、合焦検出やトラック検出を行う。この検出に基づいて 2 次元アクチュエータ (不図示) が第 1 の半導体レーザ 1 1 1 からの光束を第 1 の光ディスク 2 0 の記録面 2 2 上に結像するように対物レンズ 1 6 を移動させると共に、半導体レーザ 1 1 1 からの光束を所定のトラックに結像するように対物レンズ 1 6 を移動させる。

## 【 0 0 6 7 】

一方、第 2 半導体レーザ 1 2 1 (波長  $\lambda_2 = 600 \text{ nm} \sim 700 \text{ nm}$ ) から出射された光束は、1/4 波長板 1 2 3 及び第 3 のビームスプリッタ 1 2 4 を透過し、補正素子であるコリメータ 1 2 5 で平行光束に変換された後、更に第 2 のビームスプリッタ 1 1 6 を通過し、さらに絞り 1 7 によって絞られ、対物レンズ 1 6 により第 2 の光ディスク 2 0 の保護層 2 1 (厚さ  $t_2 = 0.5 \sim 0.7 \text{ mm}$ ) を介して情報記録面 2 2 に集光される。

## 【 0 0 6 8 】

そして情報記録面 2 2 で情報ピットにより変調されて反射した光束は、再び対物レンズ 1 6、絞り 1 7 を透過して、第 2 のビームスプリッタ 1 1 6 に入射し、ここで反射され、コリメータ 1 2 5 を通過し、第 3 のビームスプリッタ 1 2 4 に入射し、更に反射され、シリンドリカルレンズ 1 2 7 で非点収差が与えられ、凹レンズ 1 2 8 を介して光検出器 1 2 9 上へ入射し、その出力信号を用いて、第 2 の光ディスク 2 0 に情報記録された情報の読み取り信号が得られる。

## 【 0 0 6 9 】

また、光検出器 1 2 9 上でのスポットの形状変化、位置変化による光量変化を検出して、合焦検出やトラック検出を行う。この検出に基づいて 2 次元アクチュエータ（不図示）が第 2 の半導体レーザ 1 2 1 からの光束を第 2 の光ディスク 2 0 の記録面 2 2 上に結像するように対物レンズ 1 6 を移動させると共に、半導体レーザ 1 2 1 からの光束を所定のトラックに結像するように対物レンズ 1 6 を移動させる。

## 【 0 0 7 0 】

尚、図 1 では第 1 半導体レーザ 1 1 1 と対物レンズ 1 6 との間、及び第 2 半導体レーザ 1 2 1 と対物レンズ 1 6 との間の光路内に、それぞれ補正素子としてのコリメータ 1 1 5、1 2 5 を挿入しているが、補正機能を備えたコリメータを、いずれかの光路内に挿入しても良い。後述する実施例は、コリメータ 1 2 5（DVD 用）のみが補正機能を有し、高密度 DVD、DVD 及び CD の互換性を持たせた（これらの光情報記録媒体のいずれに対しても情報の記録／再生を行えるようにするの意味、以下同じ）場合（実施例 1）、コリメータ 1 1 5（高密度 DVD 用）のみが補正機能を有し、高密度 DVD 及び DVD の互換性を持たせた（実施例 2）場合、或いは高密度 DVD、DVD 及び CD の互換性を持たせた（実施例 3、4、5）場合に相当する。尚、実施例 1、3、4、5 の場合、図 1 では第 3 の光情報記録媒体（ここでは CD）の光源や光路は省略して示されている。これらの場合、第 3 の光情報記録媒体に対して情報の記録／再生を行わない、高密度 DVD と DVD との間でのみ互換性を持たせた光ピックアップ装置に用いることもできる。

## 【 0 0 7 1 】

図 2 は、高密度 D V D のみに対して情報の記録／再生を行う、第 2 の実施の形態にかかる光情報記録再生装置又は光ピックアップ装置の概略構成図である。図 2 においては、第 1 光源としての第 1 半導体レーザ 1 1 1 (波長  $\lambda_1 = 380 \text{ nm} \sim 450 \text{ nm}$ ) から出射された光束は、 $1/4$  波長板 1 1 3 及びビームスプリッタ 1 1 4 を透過し、補正素子であるコリメータ 1 1 5 で平行光束に変換された後、さらに絞り 1 7 によって絞られ、集光光学素子としての対物レンズ 1 6 により第 1 の光ディスク 2 0 の保護層 2 1 (厚さ  $t_1 = 0.5 \sim 0.7 \text{ mm}$ ) を介して情報記録面 2 2 に集光される。

#### 【 0 0 7 2 】

そして情報記録面 2 2 で情報ピットにより変調されて反射した光束は、再び対物レンズ 1 6、絞り 1 7 を透過して、コリメータ 1 1 5 を通過し、ビームスプリッタ 1 1 4 に入射し、ここで反射され、シリンドリカルレンズ 1 1 7 で非点収差が与えられ、凹レンズ 1 1 8 を介して光検出器 1 1 9 上へ入射し、その出力信号を用いて、第 1 の光ディスク 2 0 に情報記録された情報の読み取り信号が得られる。

#### 【 0 0 7 3 】

また、光検出器 1 1 9 上でのスポットの形状変化、位置変化による光量変化を検出して、合焦検出やトラック検出を行う。この検出に基づいて 2 次元アクチュエータ (不図示) が第 1 の半導体レーザ 1 1 1 からの光束を第 1 の光ディスク 2 0 の記録面 2 2 上に結像するように対物レンズ 1 6 を移動させると共に、半導体レーザ 1 1 1 からの光束を所定のトラックに結像するように対物レンズ 1 6 を移動させる。

#### 【 0 0 7 4 】

以下、上述の実施の形態に好適な実施例について説明する。

対物レンズの両面は [数 1] で示される非球面である。ただし、 $Z$  は光軸方向の軸で、 $h$  は光軸からの高さ、 $r$  は近軸曲率半径、 $\kappa$  は円錐係数、 $A_{2i}$  は非球面係数である。



【数 1】

$$Z = \frac{(h^2 / r)}{1 + \sqrt{1 - (1 + \kappa)(h/r)^2}} + \sum_{i=1}^9 A_i h^{Pi}$$

【0 0 7 5】

更に、対物レンズの光源側非球面の表面には回折構造が一体で形成されている。この回折構造は、ブレイズ化波長 $\lambda_B$ に対する光路差関数 $\Phi$ により単位をmmとして【数 2】で表される。この 2 次係数が回折部分の近軸的なパワーが表される。また、2 次以外の係数、例えば 4 次、6 次係数等で球面収差を制御できる。ここで制御できるとは、屈折部分が有する球面収差を回折部分で逆特性の球面収差を持たせてトータルとして球面収差を補正したり、回折部分の波長依存性を利用して、入射波長によって球面収差を補正したりフレアを生じさせたりすることができる。この場合、温度変化時の球面収差も、屈折部分の球面収差の温度変化と回折部分の球面収差変化のトータルと考えることが出来る。

【数 2】

$$\Phi = \sum_{i=1}^{\infty} c_{2i} h^{2i} \quad (\text{mm})$$

【0 0 7 6】

(実施例 1)

本実施例は、図 1 における第 2 の半導体レーザ 1 2 1 と対物レンズ 1 6 の間の光路内にのみ補正素子としてのコリメータ 1 2 5 を挿入した場合（すなわちコリメータ 1 1 5 には補正機能なし）に好適な実施例である。表 1, 2 に、本実施例にかかる光学系（対物レンズ+コリメータ）のレンズデータを示す。表 1, 2 より明らかであるが、対物レンズ 1 6 において、第 1 半導体レーザ 1 1 1 と第 2 半

導体レーザ 1 2 1 とが通過する領域（共用領域という）に回折構造が設けられ、またコリメータ 1 2 5 にも回折構造が設けられている。尚、これ以降（表のレンズデータ含む）において、10 のべき乗数（例えば、 $2.5 \times 10^{-3}$ ）を、E（例えば、 $2.5 \times E^{-3}$ ）を用いて表すものとする。

【表 1】

## 実施例 1 レンズデータ

対物レンズの焦点距離  
像面側開口数

$f_1=2.4\text{mm}$   
NA1:0.65

$f_2=2.46\text{mm}$   
NA2:0.65

$f_3=2.49\text{mm}$   
NA3:0.45

| 第i面    | ri       | di(407nm)            | ni(407nm) | di(655nm)            | ni(655nm) | di(785nm)            | ni(785nm) |
|--------|----------|----------------------|-----------|----------------------|-----------|----------------------|-----------|
| 0      |          | $\infty$             |           | 12.75                |           | 33.74                |           |
| 1      | -8.67751 |                      |           | 1.5                  | 1.540513  |                      |           |
| 2      | -3.85279 |                      |           | 5                    | 1.0       |                      |           |
| 3(絞り径) | $\infty$ | 0.1( $\phi$ 3.120mm) |           | 0.1( $\phi$ 3.192mm) |           | 0.1( $\phi$ 2.401mm) |           |
| 4      | 1.59131  | 1.60000              | 1.524609  | 1.60000              | 1.506732  | 1.60000              | 1.503453  |
| 4'     | 2.16692  | 0.15126              | 1.524609  | 0.15126              | 1.506732  | 0.15126              | 1.503453  |
| 5      | -5.85891 | 1.12                 | 1.0       | 1.16                 | 1.0       | 1.01                 | 1.0       |
| 5'     | -5.51220 | 0.00000              | 1.0       | 0.00000              | 1.0       | 0.00000              | 1.0       |
| 6      | $\infty$ | 0.6                  | 1.61869   | 0.6                  | 1.57752   | 1.2                  | 1.57063   |
| 7      | $\infty$ |                      |           |                      |           |                      |           |

\*diは、第i面から第i+1面までの変位を表す。

\*d4'、d5'はそれぞれ第4面から第4'面、第5面から第5'面までの変位を表す。

【表 2】

## 非球面データ

## 第1面 (DVD専用)

## 非球面係数

$\kappa -2.7276 \times E-0$

$A1 -4.5283 \times E-4$

$A2 +1.3214 \times E-4$

$P1 4.0$

$P2 6.0$

## 光路差関数

$C2 +1.6614 \times E+1$

$C4 +3.3501 \times E-0$

$C6 +1.5629 \times E-0$

$C8 +3.2769 \times E-2$

$C10 -2.7011 \times E-2$

## 第2面 (DVD専用)

## 非球面係数

$\kappa -0.1000 \times E-0$

$A1 -1.4368 \times E-3$

$A2 -8.1143 \times E-4$

$P1 4.0$

$P2 6.0$

第4面 ( $0 < h < 1.56 \text{mm}$  : HD-DVD/DVD共有領域)

## 非球面係数

$\kappa -7.4653 \times E-1$

$A1 +8.3080 \times E-3$

$A2 -8.7702 \times E-4$

$A3 +1.3463 \times E-3$

$A4 -7.9116 \times E-4$

$A5 +2.9845 \times E-4$

$A6 -6.6527 \times E-5$

$P1 4.0$

$P2 6.0$

$P3 8.0$

$P4 10.0$

$P5 12.0$

$P6 14.0$

## 光路差関数

$C2 -1.2851 \times E-1$

$C4 -1.8026 \times E-0$

$C6 -1.1807 \times E-2$

$C8 -1.0354 \times E-1$

$C10 +4.8953 \times E-3$

第4'面 ( $1.56 \text{mm} \leq h$  : DVD専用領域)

## 非球面係数

$\kappa -7.4653 \times E-1$

$A1 +8.3080 \times E-3$

$A2 -8.7702 \times E-4$

$A3 +1.3463 \times E-3$

$A4 -7.9116 \times E-4$

$A5 +2.9845 \times E-4$

$A6 -6.6527 \times E-4$

$P1 4.0$

$P2 6.0$

$P3 8.0$

$P4 10.0$

$P5 12.0$

$P6 14.0$

## 光路差関数

$C2 -4.0482 \times E+1$

$C4 +1.2757 \times E-0$

$C6 +2.8435 \times E-0$

$C8 +1.0392 \times E-0$

$C10 -9.0342 \times E-1$

第5面 ( $0 < h < 1.287 \text{mm}$ )

## 非球面係数

$\kappa -9.6287 \times E+1$

$A1 -3.4537 \times E-2$

$A2 +1.2630 \times E-2$

$A3 -9.0327 \times E-3$

$A4 +2.2022 \times E-3$

$A5 -1.0621 \times E-4$

$A6 -3.1979 \times E-5$

$P1 4.0$

$P2 6.0$

$P3 8.0$

$P4 10.0$

$P5 12.0$

$P6 14.0$

第5'面 ( $1.287 \text{mm} \leq h$ )

## 非球面係数

$\kappa -1.5903 \times E+2$

$A1 +8.4430 \times E-4$

$A2 +1.2839 \times E-2$

$A3 -9.6961 \times E-3$

$A4 +1.9433 \times E-3$

$A5 -8.6437 \times E-5$

$A6 -1.8294 \times E-5$

$P1 4.0$

$P2 6.0$

$P3 8.0$

$P4 10.0$

$P5 12.0$

$P6 14.0$

【 0 0 7 7 】

本実施例の仕様は、以下の通りである。

- (1) 対物レンズ共用領域回折輪帯数 (1 次回折)  $N_1 : 23$
- (2) コリメータ輪帯数 (2 次回折)  $N_2 : 18$
- (3) 高密度 DVD (第 1 光ディスク) 側光学系倍率  $m_o : -1/6$
- (4) 保護層の厚さ  $t_1, t_2 : 0.6 \text{ mm}, t_3 : 1.2 \text{ mm}$
- (5) 対物レンズ共用領域の回折構造により最大の回折効率となる回折光の次数  
高密度 DVD : 従来の DVD : CD = 6 : 4 : 3
- (6) 各波長の光に対する対物レンズの光学系倍率  
高密度 DVD : 従来の DVD : CD = 0 : 0 :  $-1/12.7$

【 0 0 7 8 】

尚、本実施例の集光光学系は、請求項 4, 32 等の光ピックアップ装置に用いると好適である。

【 0 0 7 9 】

(実施例 2 ~ 5)

本実施例 2 ~ 5 は、図 1 における第 1 の半導体レーザ 111 と対物レンズ 16 の間の光路内にのみ補正素子としてのコリメータ 115 を挿入した場合 (すなわちコリメータ 125 には補正機能なし) に好適な実施例である。

【 0 0 8 0 】

(実施例 2)

表 3、4 に、実施例 2 にかかる集光光学系 (対物レンズ + コリメータ) のレンズデータを示す。

【表 3】

実施例2 レンズデータ

対物レンズの焦点距離

$f_1=2.4\text{mm}$   $f_2=2.46\text{mm}$

像面側開口数

NA1:0.65 NA2:0.65

| 第i面 | ri       | di(407nm) | ni(407nm) | di(655nm) | ni(655nm) |                           |
|-----|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------------------------|
| 0   |          | 12.79     |           | $\infty$  |           |                           |
| 1   | -8.3107  | 1.5       | 1.542771  |           |           |                           |
| 2   | -4.7378  | 5.1       | 1.0       |           |           |                           |
| 3   | $\infty$ | 0.0       | 1.0       | 0.0       | 1.0       | 絞り径 $\phi 3.192\text{mm}$ |
| 4   | 1.54227  | 1.60000   | 1.542771  | 1.60000   | 1.52915   |                           |
| 4'  | 2.09495  | 0.15126   | 1.542771  | 0.15126   | 1.52915   |                           |
| 5   | -5.85469 | 1.14000   | 1.0       | 1.07000   | 1.0       |                           |
| 6   | $\infty$ | 0.6       | 1.61869   | 0.6       | 1.57752   |                           |
| 7   | $\infty$ |           |           |           |           |                           |

\*diは、第i面から第i+1面までの変位を表す。

\*d4'は第4面から第4'面までの変位を表す。

【表 4】

## 非球面データ

## 第1面 (HD-DVD専用)

## 非球面係数

$\kappa +3.5236 \times E-0$

$A1 -7.4347 \times E-4$

$A2 -1.1113 \times E-3$

$P1 4.0$

$P2 6.0$

## 光路差関数

$C2 -1.7730 \times E+1$

$C4 +1.6436 \times E-0$

$C6 -1.2341 \times E-0$

$C8 +5.5958 \times E-2$

$C10 +5.8919 \times E-2$

## 第2面 (HD-DVD専用)

## 非球面係数

$\kappa +2.9191 \times E-0$

$A1 +2.1252 \times E-3$

$A2 +3.1469 \times E-4$

$P1 4.0$

$P2 6.0$

第4面 ( $0 < h < 1.56\text{mm}$  : HD-DVD/DVD共有領域)

## 非球面係数

$\kappa -7.6953 \times E-1$

$A1 +8.4000 \times E-3$

$A2 -9.2000 \times E-4$

$A3 +1.6657 \times E-3$

$A4 -7.3116 \times E-4$

$A5 +2.3051 \times E-4$

$A6 -5.7188 \times E-5$

$P1 4.0$

$P2 6.0$

$P3 8.0$

$P4 10.0$

$P5 12.0$

$P6 14.0$

## 光路差関数

$C2 -2.6573 \times E-0$

$C4 -1.0803 \times E-0$

$C6 -2.5559 \times E-1$

$C8 +8.6007 \times E-2$

$C10 -2.9751 \times E-2$

第4'面 ( $1.56\text{mm} < h$  : DVD専用領域)

## 非球面係数

$\kappa -4.0617 \times E-0$

$A1 -5.2846 \times E-3$

$A2 +6.8538 \times E-3$

$A3 +2.5685 \times E-2$

$A4 +7.6026 \times E-3$

$A5 -5.6376 \times E-4$

$A6 +1.9688 \times E-4$

$P1 4.0$

$P2 6.0$

$P3 8.0$

$P4 10.0$

$P5 12.0$

$P6 14.0$

## 光路差関数

$C2 -3.5650 \times E+1$

$C4 +6.2611 \times E-0$

$C6 +3.8905 \times E-0$

$C8 +1.1623 \times E-0$

$C10 -9.3398 \times E-1$

## 第5面

## 非球面係数

$\kappa -7.5809 \times E+1$

$A1 -2.8052 \times E-3$

$A2 +1.3670 \times E-2$

$A3 -9.5656 \times E-3$

$A4 +1.7676 \times E-3$

$A5 +2.9457 \times E-4$

$A6 -1.1557 \times E-4$

$P1 4.0$

$P2 6.0$

$P3 8.0$

$P4 10.0$

$P5 12.0$

$P6 14.0$

【 0 0 8 1 】

本実施例の仕様は、以下の通りである。

- (1) 対物レンズ共用領域回折輪帯数 (1 次回折)  $N1 : 16$
- (2) コリメータ輪帯数 (2 次回折)  $N2 : 18$
- (3) 高密度 DVD (第 1 光ディスク) 側光学系倍率  $m_o : -1/6$
- (4) 保護層の厚さ  $t1, t2 : 0.6 \text{ mm}$
- (5) 対物レンズ共用領域の回折構造により最大の回折効率となる回折光の次数  
高密度 DVD : 従来の DVD =  $3 : 2$
- (6) 各波長の光に対する対物レンズの光学系倍率  
高密度 DVD : 従来の DVD =  $0 : 0$

【 0 0 8 2 】

尚、本実施例の集光光学系は、請求項 4、12 等の光ピックアップ装置に用いると好適である。

【 0 0 8 3 】

(実施例 3)

本実施例も、図 2 に示す光ピックアップ装置に好適な実施例である。表 5 に、本実施例にかかる集光光学系 (対物レンズ + コリメータ) のレンズデータを示す。

【表5】

## 実施例3 レンズデータ

対物レンズの焦点距離

 $f_1=2.4\text{mm}$  $f_2=2.4\text{mm}$  $f_3=2.5\text{mm}$ 

像面側開口数

NA1:0.65

NA2:0.65

NA3:0.45

| 第i面    | $r_i$     | $d_i(407\text{nm})$          | $n_i(407\text{nm})$ | $d_i(655\text{nm})$          | $n_i(655\text{nm})$ | $d_i(785\text{nm})$          | $n_i(785\text{nm})$ |
|--------|-----------|------------------------------|---------------------|------------------------------|---------------------|------------------------------|---------------------|
| 0      |           | 14.15                        |                     | 12.65                        |                     | 35.30                        |                     |
| 1      | 37.65302  | 1.50                         | 1.542771            |                              |                     |                              |                     |
| 2      | -3.06488  | 5.00                         | 1.00                |                              |                     |                              |                     |
| 3(絞り径) | $\infty$  | 0.1( $\phi 3.120\text{mm}$ ) |                     | 0.1( $\phi 3.123\text{mm}$ ) |                     | 0.1( $\phi 2.405\text{mm}$ ) |                     |
| 4      | 1.94029   | 1.60                         | 1.524609            | 1.60                         | 1.506732            | 1.60                         | 1.503453            |
| 5      | -19.05844 | 1.02                         | 1.0                 | 1.00                         | 1.0                 | 0.90                         | 1.0                 |
| 6      | $\infty$  | 0.60                         | 1.61869             | 0.60                         | 1.57752             | 1.20                         | 1.57063             |
| 7      | $\infty$  |                              |                     |                              |                     |                              |                     |

\* $d_i$ は、第i面から第i+1面までの変位を表す。

## 非球面データ

## 第1面 (HD-DVD専用)

## 非球面係数

 $K -2.0527 \times E-1$  $A1 +1.2177 \times E-2$  $A2 -1.4618 \times E-4$ 

P1 4.0

P2 6.0

## 第2面(HD-DVD専用)

## 非球面係数

 $K -1.0874 \times E-1$  $A1 +9.5823 \times E-3$  $A2 +7.0554 \times E-4$ 

P1 4.0

P2 6.0

## 光路差関数

 $C2 +1.4605 \times E+2$  $C4 +5.9202 \times E-0$  $C6 +3.1566 \times E-0$ 

## 第4面

## 非球面係数

 $K -7.6390 \times E-1$  $A1 +5.7888 \times E-3$  $A2 +5.9520 \times E-4$  $A3 +9.0951 \times E-4$  $A4 -9.9238 \times E-4$  $A5 +4.0468 \times E-4$  $A6 -7.5725 \times E-5$ 

P1 4.0

P2 6.0

P3 8.0

P4 10.0

P5 12.0

P6 14.0

## 光路差関数

 $C2 -2.6687 \times E+1$  $C4 -1.6322 \times E-0$  $C6 +5.5099 \times E-2$  $C8 -1.0644 \times E-0$  $C10 +1.3015 \times E-2$ 

## 第5面

## 非球面係数

 $K -4.5835 \times E+2$  $A1 +1.8084 \times E-2$  $A2 -4.3442 \times E-3$  $A3 -4.5714 \times E-3$  $A4 +4.1244 \times E-3$  $A5 -2.4595 \times E-3$  $A6 +5.7937 \times E-4$ 

P1 4.0

P2 6.0

P3 8.0

P4 10.0

P5 12.0

P6 14.0



【 0 0 8 4 】

本実施例の仕様は、以下の通りである。

- (1) 対物レンズ共用領域回折輪帯数 (1 次回折)  $N_1 : 81$
- (2) コリメータ輪帯数 (1 次回折)  $N_2 : 366$
- (3) 第 1 光ディスク側光学系倍率  $m_o : -1/6$
- (4) 保護層の厚さ  $t_1, t_2 : 0.6 \text{ mm}, t : 1.2 \text{ mm}$
- (5) 対物レンズ共用領域の回折構造により最大の回折効率となる回折光の次数  
高密度 DVD : 従来の DVD : CD = 6 : 4 : 3
- (6) 各波長の光に対する対物レンズの光学系倍率  
高密度 DVD : 従来の DVD : CD = 0 : 0 :  $-1/13.2$

【 0 0 8 5 】

尚、本実施例の集光光学系は、請求項 4, 32 等の光ピックアップ装置に用いると好適である。

【 0 0 8 6 】

(実施例 4)

本実施例は、図 2 に示す光ピックアップ装置に好適な実施例である。表 6 に、本実施例にかかる集光光学系 (対物レンズ+コリメータ) のレンズデータを示す。

【表 6】

## 実施例4 レンズデータ

対物レンズの焦点距離

 $f_1=2.4\text{mm}$  $f_2=2.45\text{mm}$  $f_3=2.50\text{mm}$ 

像面側開口数

NA1:0.65

NA2:0.65

NA2:0.45

| 第i面    | ni        | di(407nm)            | ni (407nm) | di(655nm)            | ni(655nm) | di(785nm)            | ni (785nm) |
|--------|-----------|----------------------|------------|----------------------|-----------|----------------------|------------|
| 0      |           | 14.15                |            | 827.00               |           | 36.16                |            |
| 1      | 37.65302  | 1.50                 | 1.542771   |                      |           |                      |            |
| 2      | -3.06488  | 5.00                 | 1.00       |                      |           |                      |            |
| 3(絞り径) | $\infty$  | 0.1( $\phi$ 3.120mm) |            | 0.1( $\phi$ 3.198mm) |           | 0.1( $\phi$ 2.403mm) |            |
| 4      | 1.92291   | 1.60                 | 1.524609   | 1.60                 | 1.506732  | 1.60                 | 1.503453   |
| 5      | -19.08099 | 1.02                 | 1.0        | 1.06                 | 1.0       | 0.89                 | 1.0        |
| 6      | $\infty$  | 0.60                 | 1.61869    | 0.60                 | 1.57752   | 1.20                 | 1.57063    |
| 7      | $\infty$  |                      |            |                      |           |                      |            |

\*diは、第i面から第i+1面までの変位を表す。

## 非球面データ

## 第1面 (HD-DVD専用)

非球面係数

 $\kappa -2.0527 \times E-1$ A1  $+1.2177 \times E-2$ A2  $-1.4618 \times E-4$ 

P1 4.0

P2 6.0

## 第2面 (HD-DVD専用)

非球面係数

 $\kappa -1.0874 \times E-1$ A1  $+9.5823 \times E-3$ A2  $+7.0554 \times E-4$ 

P1 4.0

P2 6.0

光路差関数

C2  $+1.4605 \times E+2$ C4  $+5.9202 \times E-0$ C6  $+3.1566 \times E-0$ 

## 第4面

非球面係数

 $\kappa -7.9792 \times E-1$ A1  $+4.9330 \times E-3$ A2  $+7.0747 \times E-4$ A3  $+9.4490 \times E-4$ A4  $-1.0691 \times E-3$ A5  $+4.1435 \times E-4$ A6  $-7.3960 \times E-5$ 

P1 4.0

P2 6.0

P3 8.0

P4 10.0

P5 12.0

P6 14.0

光路差関数

C2  $-1.9643 \times E+1$ C4  $-1.5085 \times E-0$ C6  $+1.0855 \times E-1$ C8  $-1.0371 \times E-1$ C10  $+1.3735 \times E-2$ 

## 第5面

非球面係数

 $\kappa -5.2563 \times E+2$ A1  $+1.7853 \times E-2$ A2  $-4.7662 \times E-3$ A3  $-4.9002 \times E-3$ A4  $+4.0691 \times E-3$ A5  $-1.9875 \times E-3$ A6  $+3.9475 \times E-4$ 

P1 4.0

P2 6.0

P3 8.0

P4 10.0

P5 12.0

P6 14.0

【 0 0 8 7 】

本実施例の仕様は、以下の通りである。

- (1) 対物レンズ共用領域回折輪帯数 (1 次回折)  $N 1 : 8 1$
- (2) コリメータ輪帯数 (1 次回折)  $N 2 : 1$
- (3) 第 1 光ディスク側光学系倍率  $m : - 1 / 6$
- (4) 保護層の厚さ  $t 1, t 2 : 0. 6 \text{ mm}, t 3 : 1. 2 \text{ mm}$
- (5) 対物レンズ共用領域の回折構造により最大の回折効率となる回折光の次数  
高密度 DVD : 従来の DVD : CD = 2 : 1 : 1
- (6) 各波長の光に対する対物レンズの光学系倍率  
高密度 DVD : 従来の DVD : CD = 0 :  $- 1 / 1 3. 1 : - 1 / 1 3. 0$

【 0 0 8 8 】

尚、本実施例の集光光学系は、請求項 3, 3 6 等の光ピックアップ装置に用いると好適である。

【 0 0 8 9 】

(実施例 5)

本実施例の集光光学系は、請求項 5, 3 4 等の光ピックアップ装置に用いると好適である。表 7 に、本実施例にかかる集光光学系 (対物レンズ+コリメータ) のレンズデータを示す。

【表 7】

## 実施例 5 レンズデータ

対物レンズの焦点距離

 $f_1=2.4\text{mm}$  $f_2=2.4\text{mm}$  $f_3=2.49\text{mm}$ 

像面側開口数

NA1:0.65

NA2:0.65

NA2:0.45

| 第i面    | $n_i$    | $d_i(407\text{nm})$        | $n_i(407\text{nm})$ | $d_i(655\text{nm})$        | $n_i(655\text{nm})$ | $d_i(785\text{nm})$        | $n_i(785\text{nm})$ |
|--------|----------|----------------------------|---------------------|----------------------------|---------------------|----------------------------|---------------------|
| 0      |          | 13.45                      |                     | 12.75                      |                     | 34.74                      |                     |
| 1      | 1643.88  | 1.50                       | 1.542771            |                            |                     |                            |                     |
| 2      | -9.1285  | 5.10                       | 1.0                 |                            |                     |                            |                     |
| 3(絞り径) | $\infty$ | $0.1(\phi 3.120\text{mm})$ |                     | $0.1(\phi 3.452\text{mm})$ |                     | $0.1(\phi 2.392\text{mm})$ |                     |
| 4      | 1.54056  | 1.70                       | 1.524609            | 1.70                       | 1.506732            | 1.70                       | 1.503453            |
| 5      | -5.05826 | 1.08                       | 1.0                 | 1.35                       | 1.0                 | 1.35                       | 1.0                 |
| 6      | $\infty$ | 0.60                       | 1.61869             | 0.60                       | 1.57752             | 1.20                       | 1.57063             |
| 7      | $\infty$ |                            |                     |                            |                     |                            |                     |

\* $d_i$ は、第i面から第i+1面までの変位を表す。

## 非球面データ

## 第1面 (HD-DVD専用)

非球面係数

 $\kappa -2.0527 \times E-33$  $A1 +6.1818 \times E-3$  $A2 -1.7991 \times E-3$ 

P1 4.0

P2 6.0

## 第2面 (HD-DVD専用)

非球面係数

 $\kappa +7.8948 \times E-0$  $A1 +5.2959 \times E-3$  $A2 -2.3710 \times E-3$ 

P1 4.0

P2 6.0

光路差関数

 $C2 -1.3131 \times E+1$  $C4 +1.4411 \times E-0$  $C6 +1.7083 \times E-0$ 

## 第4面

非球面係数

 $\kappa -7.7790 \times E-1$  $A1 +5.1727 \times E-3$  $A2 +1.1101 \times E-3$  $A3 -6.4972 \times E-4$  $A4 -5.9817 \times E-4$  $A5 +3.3629 \times E-4$  $A6 -6.2531 \times E-5$ 

P1 4.0

P2 6.0

P3 8.0

P4 10.0

P5 12.0

P6 14.0

光路差関数

 $C2 -8.1974 \times E-0$  $C4 -5.7385 \times E-0$  $C6 +1.8525 \times E-0$  $C8 -1.7519 \times E-0$  $C10 +3.7926 \times E-1$ 

## 第5面

非球面係数

 $\kappa -6.6494 \times E+1$  $A1 +4.7077 \times E-3$  $A2 +1.8991 \times E-3$  $A3 -4.8520 \times E-3$  $A4 +1.6255 \times E-3$  $A5 -2.4962 \times E-4$  $A6 +1.1626 \times E-5$ 

P1 4.0

P2 6.0

P3 8.0

P4 10.0

P5 12.0

P6 14.0

【0090】

本実施例の仕様は、以下の通りである。

- (1) 対物レンズ共用領域回折輪帯数 (1 次回折)  $N_1 : 61$
- (2) コリメータ輪帯数 (2 次回折)  $N_2 : 377$
- (3) 高密度 DVD (第 1 光ディスク) 側光学系倍率  $m : -1/6$
- (4) 保護層の厚さ  $t_1, t_2 : 0.6 \text{ mm}, t_3 : 1.2 \text{ mm}$
- (5) 対物レンズ共用領域の回折構造により最大の回折効率となる回折光の次数  
高密度 DVD : 従来の DVD : CD = 8 : 5 : 4
- (6) 各波長の光に対する対物レンズの光学系倍率

高密度 DVD : 従来の DVD : CD = 0 :  $-1/333$  :  $-1/13.4$

【0091】

(実施例 6)

表 8 に、実施例 6 にかかる集光光学系の対物レンズのレンズデータを示し、表 9 に、実施例 6 にかかる集光光学系のコリメータのレンズデータを示す。尚、実施例 6 及び後述する実施例 7 の集光光学系は、図 2 の光ピックアップ装置に用いることができるものである。

【表 8】

## 実施例 6      レンズデータ (対物レンズ 1)

f1=2.4mm

NA:0.65

| 第i面 | ri       | di       | ni (405nm) |                          |
|-----|----------|----------|------------|--------------------------|
| 0   |          | $\infty$ |            |                          |
| 1   | $\infty$ | 0.0      | 1.0        | 絞り径 $\phi 3.22\text{mm}$ |
| 2   | 1.45460  | 1.50000  | 1.52481    |                          |
| 3   | -6.04260 | 1.17774  | 1.0        |                          |
| 4   | $\infty$ | 0.6      | 1.62       |                          |
| 5   | $\infty$ |          |            |                          |

\*diは、第i面から第i+1面までの変位を表す。

## 非球面データ

## 第2面

## 非球面係数

 $\kappa -1.9937 \times E-0$  $A1 +1.6862 \times E-2$ 

P1 4.0

 $A2 +2.4659 \times E-2$ 

P2 6.0

 $A3 -8.4628 \times E-3$ 

P3 8.0

 $A4 -2.6596 \times E-4$ 

P4 10.0

 $A5 +2.7611 \times E-4$ 

P5 12.0

 $A6 -3.5091 \times E-5$ 

P6 14.0

## 光路差関数 (光路差関数の係数: 基準波長 1mm)

 $C4 -5.6672 \times E+1$  $C6 +4.5666 \times E+1$  $C8 -1.8280 \times E+1$  $C10 +2.5854 \times E-0$ 

## 第3面

## 非球面係数

 $\kappa +5.0000 \times E+1$  $A1 +1.0025 \times E-2$ 

P1 4.0

 $A2 +4.2022 \times E-3$ 

P2 6.0

 $A3 -6.3019 \times E-3$ 

P3 8.0

 $A4 +2.5320 \times E-3$ 

P4 10.0

 $A5 -5.4683 \times E-4$ 

P5 12.0

 $A6 +5.2137 \times E-5$ 

P6 14.0

【表 9】

実施例 6 レンズデータ (対物レンズ 1 用のコリメータ 1)  
f=14.4mm

| 第 i 面 | ri       | di       | ni (405nm) |                          |
|-------|----------|----------|------------|--------------------------|
| 0     |          | $\infty$ |            |                          |
| 1     | $\infty$ | 0.0      | 1.0        | 絞り径 $\phi 3.22\text{mm}$ |
| 2     | 5.42216  | 1.50000  | 1.52461    |                          |
| 3     | 11.0102  | 13.0275  | 1.0        |                          |
| 4     | $\infty$ |          | 1.0        |                          |

\*diは、第i面から第i+1面までの変位を表す。

非球面データ

第2面

非球面係数

$$K +4.5254 \times E-0$$

$$A1 -2.0556 \times E-3$$

$$A2 -8.4275 \times E-4$$

$$P1 4.0$$

$$P2 6.0$$

第3面

光路差関数 (光路差関数の係数 : 基準波長 1mm)

$$C2 -2.1495 \times E+1$$

$$C4 +1.4345 \times E-0$$

$$C6 -1.1092 \times E-0$$

$$C8 -1.1630 \times E-1$$

$$C10 +4.7356 \times E-2$$

【 0 0 9 2 】

本実施例の仕様は、以下の通りである。

- (1) 対物レンズ回折輪帯数 (1 次回折) N 1 : 1 0 0
- (2) コリメータ輪帯数 (1 次回折) N 2 : 4 8
- (3) コリメータと対物レンズを組み合わせた光学系倍率 m t : - 1 / 6
- (4) 保護層の厚さ : 0 . 6 m m

【 0 0 9 3 】

(実施例 7)

表 1 0 に、実施例 7 にかかる集光光学系のコリメータのレンズデータを示す。  
尚、このコリメータとともに用いられる対物レンズは、表 8 に示す実施例 6 のものを流用できる。

【表 1 0】

実施例 7 レンズデータ (対物レンズ 1 用のコリメータ 2)  
f=14.4mm

| 第i面 | ri       | di       | ni (405nm) |                          |
|-----|----------|----------|------------|--------------------------|
| 0   |          | $\infty$ |            |                          |
| 1   | $\infty$ | 0.0      | 1.0        | 絞り径 $\phi 3.22\text{mm}$ |
| 2   | 5.37212  | 1.50000  | 1.52461    |                          |
| 3   | 11.2778  | 12.8918  | 1.0        |                          |
| 4   | $\infty$ |          | 1.0        |                          |

\*diは、第i面から第i+1面までの変位を表す。

#### 非球面データ

##### 第2面

##### 非球面係数

$$\kappa +4.3443 \times \text{E}-0$$

$$\text{A1} -2.3164 \times \text{E}-3$$

$$\text{A2} -1.1874 \times \text{E}-3$$

$$\text{P1} 4.0$$

$$\text{P2} 6.0$$

##### 第3面

##### 光路差関数 (光路差関数の係数 : 基準波長 1mm)

$$\text{C2} -1.8815 \times \text{E}+1$$

$$\text{C4} +2.8757 \times \text{E}-0$$

$$\text{C6} -1.8681 \times \text{E}-0$$

$$\text{C8} +1.2050 \times \text{E}-1$$

$$\text{C10} +4.5833 \times \text{E}-2$$

【 0 0 9 4 】

本実施例の仕様は、以下の通りである。

- (1) 対物レンズ回折輪帯数 (1 次回折) N 1 : 1 0 0
- (2) コリメータ輪帯数 (1 次回折) N 2 : 3 9
- (3) コリメータと対物レンズを組み合わせた光学系倍率 m t : - 1 / 6
- (4) 保護層の厚さ : 0 . 6 m m



【 0 0 9 5 】

以上の実施例 1 ～ 7 の各波面収差は、表 1 1 に示すように良好なものとなった。

【表 1 1】

|       | [ $\lambda$ ] | 第1の光ディスク | 第2の光ディスク |
|-------|---------------|----------|----------|
| 実施例 1 | ①             | 0.018    | 0.003    |
|       | ②             | 0.038    | 0.008    |
|       | ③             | 0.028    | 0.017    |
| 実施例 2 | ①             | 0.013    | 0.002    |
|       | ②             | 0.036    | 0.022    |
|       | ③             | 0.024    | 0.010    |
| 実施例 3 | ①             | 0.010    | 0.128    |
|       | ②             | 0.034    | 0.010    |
|       | ③             | 0.005    | 0.004    |
| 実施例 4 | ①             | 0.008    | 0.022    |
|       | ②             | 0.038    | 0.050    |
|       | ③             | 0.023    | 0.045    |
| 実施例 5 | ①             | 0.012    | 0.127    |
|       | ②             | 0.056    | 0.016    |
|       | ③             | 0.013    | 0.005    |

|       | [ $\lambda$ ] | 第1の光ディスク |
|-------|---------------|----------|
| 実施例 6 | ①             | 0.004    |
|       | ②             | 0.047    |
|       | ③             | 0.022    |
| 実施例 7 | ①             | 0.006    |
|       | ②             | 0.065    |
|       | ③             | 0.012    |

各番号の特性

- ① 基準状態で最良像面位置における、波長変化  $\Delta \lambda = +1\text{nm}$  時の波面収差変化量
- ② 波長変化  $\Delta \lambda = +10\text{nm}$  時の最良像面位置における波面収差変化量
- ③ 温度変化  $\Delta T = 30^\circ\text{C}$  時の最良像面位置における波面収差変化量

【 0 0 9 6 】

【発明の効果】

本発明によれば、コンパクトな構成を有しながらも、高密度 DVD に対して、或いは高密度 DVD と従来の DVD の双方に対して適切に情報の記録及び／再生を行える光ピックアップ装置及び、それに用いることのできる光学系を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

第 1 の実施の形態にかかる光情報記録再生装置又は光ピックアップ装置の概略構成図である。

【図 2】

第 2 の実施の形態にかかる光情報記録再生装置又は光ピックアップ装置の概略構成図である。

【符号の説明】

1 6 対物レンズ

1 7 絞り

2 0 光ディスク

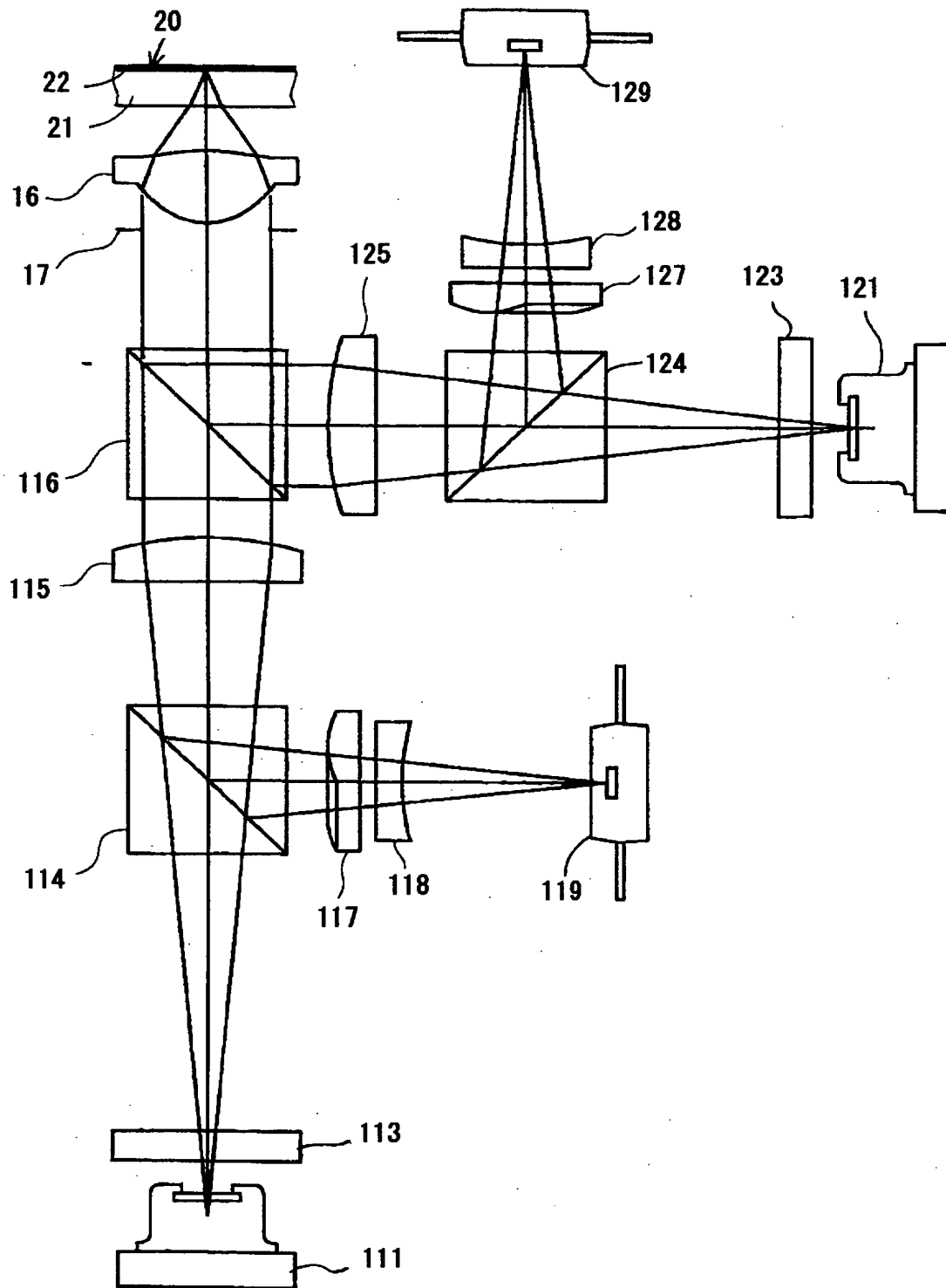
1 1 1, 1 2 1 半導体レーザ

1 1 5, 1 2 5 コリメータ

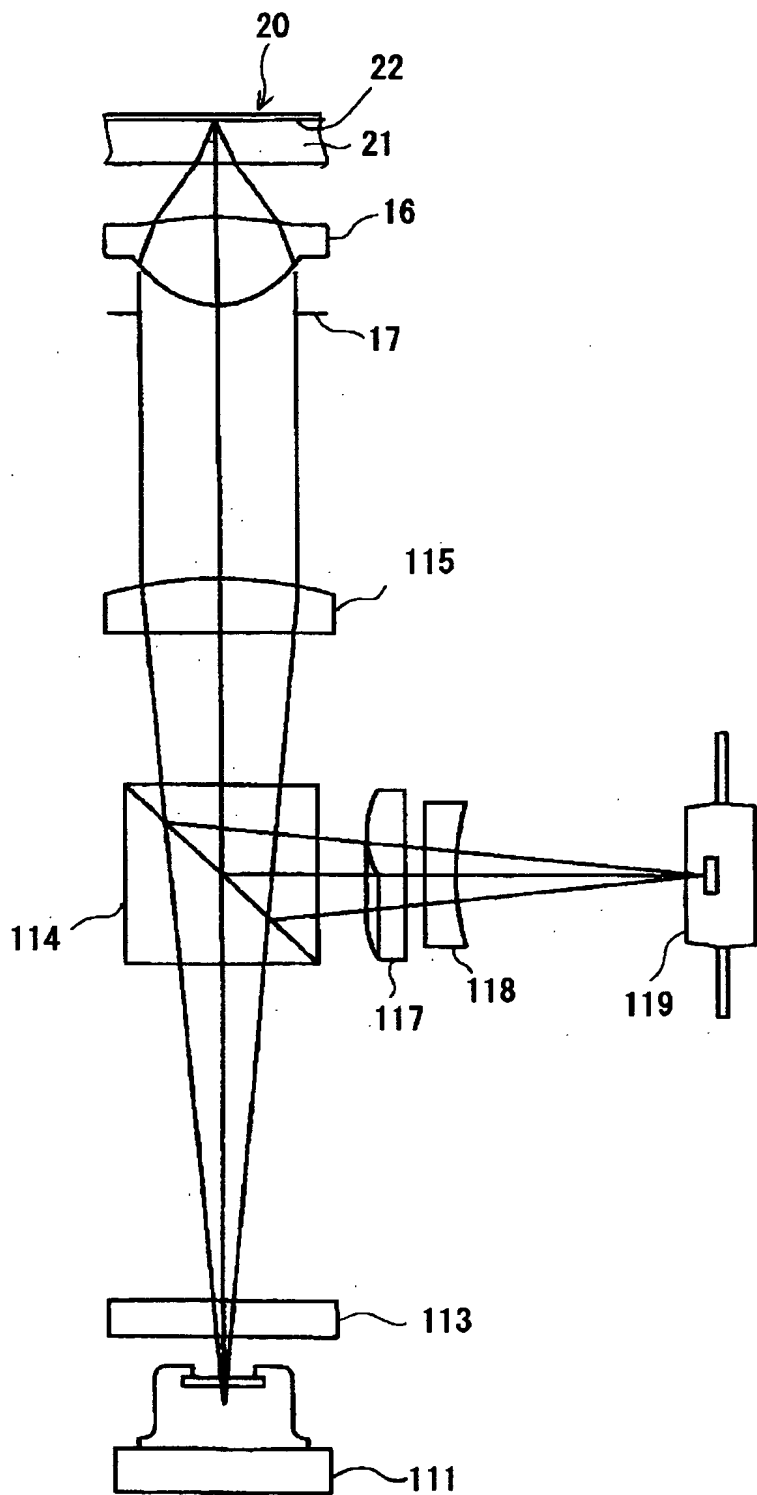
1 1 9, 1 2 9 光検出器

【書類名】 図面

【図 1】



【図 2】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】

コンパクトな構成を有しながらも、高密度DVDに対して、或いは高密度DVDと従来のDVDの双方に対して適切に情報の記録及び／再生を行える光ピックアップ装置及び、それに用いることのできる光学系を提供する。

【解決手段】

対物レンズ16単体のみでは、波長 $\lambda_1$ の半導体レーザ111からの光束と、波長 $\lambda_2$ の半導体レーザ121からの光束の双方に対して、各条件において収差劣化のない集光スポットを形成することが困難という実情に鑑み、本発明では、対物レンズ16の回折構造と、コリメータ115、125とを用いて、各収差劣化をバランス良く抑えることで、例えば高密度DVDと従来のDVDの双方に対して適切に情報の記録及び／再生を行うようにしている。

【選択図】 図1

認定・付加情報

|         |                          |
|---------|--------------------------|
| 特許出願の番号 | 特願 2 0 0 2 - 2 8 5 5 1 5 |
| 受付番号    | 5 0 2 0 1 4 6 4 5 0 5    |
| 書類名     | 特許願                      |
| 担当官     | 第一担当上席 0 0 9 0           |
| 作成日     | 平成 1 4 年 1 0 月 3 日       |

<認定情報・付加情報>

|       |             |
|-------|-------------|
| 【提出日】 | 平成14年 9月30日 |
|-------|-------------|

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000001270]

1. 変更年月日 1990年 8月14日  
[変更理由] 新規登録  
住 所 東京都新宿区西新宿1丁目26番2号  
氏 名 コニカ株式会社